

# 2021年度研修会実施録

公益社団法人 長崎県看護協会  
研修センター

---

---

# 目 次

---

---

I. 2021 年度研修実施概要	1
------------------	---

II. 2021 年度受講者概要	3
------------------	---

## III. 継続研修

### 分類 1. 「生活」と保健・医療・福祉をつなぐ質の高い看護の普及に向けた継続教育

・ 感染管理	5
・ 基礎から学ぶ人工呼吸器【1回目】【2回目】	6
・ 看護研究の導入・倫理	7
・ 明日から使える！文献検索法とその実際	8
・ 長崎県の看護の動向と展望	9
・ 楽しく学べる！看護研究に活用できる統計処理の基礎	10
・ イキイキ中堅ナース	11
・ 悩み解消！医療現場を取り巻くクレーム対応～コロナ禍のクレーム対応ポイント～	12
・ 看護に役立つ摂食嚥下リハビリテーション	13
・ 臨床倫理の基礎～倫理的問題への対処方法を学ぶ～	14
・ 運動器疾患と骨折・ロコモ予防の基礎知識	15
・ 看護の現場ですぐに役立つ看護記録～伝わる記録のコツと書き方～	16
・ 看護職に求められるリーダーシップ	17
・ 脳血管障害の基礎知識	18
・ 災害支援ナース育成研修【実務編】	19
・ 基礎から理解！認知症高齢者の正しいアセスメントとケア	20
・ 周術期の看護～外来・手術室・病棟看護師における連携とチーム医療～	21
・ 現場に役立つ！褥瘡ケア～最新知識に基づいたケアの実際～	22
・ がん化学療法 基本の理解と予測・対応	23
・ 高齢者に安全な薬物療法～多職種連携で進める服薬管理	24
・ 理解を深めよう！消化器領域の検査データの見方・活かし方	25
・ がん患者のセルフケア支援～治療期の生活を支えるために～	26
・ 急性期における家族の思いに寄り添ったケア	27
・ 即実践！伝わる・身につく教え方～OJT の際の指導力、研修の設計力を高めよう～	28
・ はじめてのプリセプター【第1回】【第2回】～新人の一番近くに～	29
・ 慢性心不全患者の看護	30
・ 感染症の最新動向 新興ウィルスと感染予防対策	31
・ 意思決定支援～終末期における輸液・鎮静	32
・ 実践に生かす！糖尿病の最新知識とセルフケア支援	33

・楽しく学ぼう！理解を深めよう！循環器領域の検査データの見方・活かし方	-----	34
-------------------------------------	-------	----

### 分類 3. 看護管理者が地域包括ケアシステムを推進するための力量形成に継続教育

・在宅での看取りと多職種連携の実際	-----	35
・地域での療養を支える外来看護	-----	36
・地域包括ケア時代の看護師の役割～退院支援への取り組み～	-----	37
・看護管理の基礎知識	-----	38

### 分類 4. 専門能力開発を支援するための教育体制の充実に向けた継続教育

・看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版)を活用した教育体制における評価の実際 【JNA オンデマンド研修 143】	-----	39
--	-------	----

### 分類 5. 資格認定教育

・認定看護管理者教育課程ファーストレベル	-----	40
・認定看護管理者教育課程セカンドレベル	-----	42

# I.2021 年度 研修実施概要

## 分類 1 「生活」と保健・医療・福祉をつなぐ質の高い看護の普及に向けた継続教育

研 修 名	開催期間	ね ら い
感染管理	6/11(金) ～ 7/10(土)	感染管理の基礎知識を理解し、感染管理を実践するためのリーダーとしての役割遂行能力を養う。
感染症の基礎知識と感染対策 (感染管理研修公開)	6/12(土)	感染症の基礎知識と感染対策を学ぶ。
基礎から学ぶ呼吸のメカニズムと人工呼吸器 【第1回】	7/1(木)	人工呼吸器を装着している患者ケアの基礎的な知識を学び看護実践に生かす。
基礎から学ぶ呼吸のメカニズムと人工呼吸器 【第2回】	9/9(木)	
職業感染防止の実際(感染管理研修公開)	7/9(金)	医療現場で起きる職業感染について理解し、防止するための方策を学ぶ。
侵襲的な器具や処置の感染予防策の実際 (感染管理研修公開)	7/10(土)	器具や処置の感染予防策の実際を学び看護実践に役立てる。
看護研究の導入・倫理	7/21(水)	看護研究に必要な知識と研究倫理の歴史、研究倫理の項目について学ぶ。
災害支援ナースの第一歩～災害看護の基本的知識～(JNA 収録 DVD 研修)	9/1(水) 2(木)	看護専門職の災害時支援者として必要な基礎知識を習得する。災害支援ナースとしての役割や活動の実際を理解する。
明日から使える！文献検索法とその実際	7/28(水)	研究テーマに結びつけた文献検索の方法を学ぶ。
長崎県の看護の動向と展望	8/1(日)	看護を取り巻く環境の変化・動向を学ぶ。
楽しく学べる！看護研究に活用できる統計処理の基礎	8/4(水) 5(木)	看護研究に活用できる統計学の基礎を理解し、統計処理方法の実際を学ぶ。
イキイキ中堅ナース	8/6(金) ～ 10/29(金)	中堅看護職員として期待される役割を自覚し、その役割を実践するために必要な知識・技術を確認、習得する。
悩み解消！医療現場を取り巻くクレーム対応～コロナ禍のクレーム対応ポイント～	8/21(土)	医療現場で起きているトラブルに関する最近の動向を知り、クレームに向き合う姿勢・技術を学ぶ。
看護に役立つ摂食嚥下リハビリテーション	9/4(土)	患者の QOL 向上に向けた摂食嚥下リハビリテーションの方法を理解し、看護実践へ生かす。
臨床倫理の基礎 ～倫理的問題への対処方法を学ぶ～	9/5(日)	医療・看護における倫理の基礎を理解し、事例を通して倫理的問題に気付くための方法と解決方法を理解する。
運動器疾患と骨折・ロコモ予防の基礎知識	9/12(日)	運動機能障害を正しく理解し、ロコモ予防のための基礎知識を学ぶ。
看護の現場ですぐに役立つ看護記録 ～伝わる記録のコツと書き方～	9/22(水)	看護記録の重要性を知り、看護実践が見える看護記録を残すことができる。
看護職に求められるリーダーシップ	9/29(水)	リーダーシップを発揮するために必要な基本知識を学び、チームでの役割を理解することで実践に生かす。
脳血管障害の基礎知識	10/1(金)	脳血管障害の基本知識を学び、看護に必要なアセスメント能力の向上につなげ看護実践に生かす。
災害支援ナース育成研修【実務編】	10/2(土)	看護専門職の災害時支援者としての被災地や被災者に対して有効に機能し、災害支援ナースとして他者と協働し、自立的な活動を学ぶ。
基礎から理解！ 認知症高齢者の正しいアセスメントとケア	10/3(日)	認知症高齢者を正しく理解するためのアセスメントの視点を学び看護実践に繋げる。
周術期の看護～外来・手術室・病棟看護師における連携とチーム医療～	10/8(金)	術前から術後までのリスク評価と手術侵襲における必要な援助を理解し、周術期の看護実践へ生かす。
現場に役立つ！褥瘡ケア ～最新知識に基づいたケアの実際～	10/21(木)	褥瘡予防の重要性や褥瘡ケアの具体的な方法を理解し実践に繋ぐ。
がん化学療法 基本の理解と予測・対応	10/22(金)	がん化学療法の基礎知識と看護の実際を学ぶ
人材育成に活かすコーチングスキル (中堅ナース研修公開)	10/29(金)	コーチング技法を学び、看護現場における患者・医療チームに活用できるコミュニケーション自己表現力を身につけると共に人材育成に役立てる。
高齢者に安全な薬物療法 ～他職種連携で進める服薬管理～	10/31(日)	加齢に伴う身体機能の変化による薬物動態を理解し、高齢者の安全な薬物療法に繋げ、看護実践に生かす。
理解を深めよう！ 消化器領域の検査データの見方・活かし方	11/6(土)	消化器疾患に関連する検査データの基礎知識を学び、看護実践に生かすことができる。
がん患者のセルフケア支援～治療期の生活を支えるために～	11/10(水)	治療期にあるがん患者の全人的苦痛を理解し、セルフケア支援における看護について学ぶ。
急性期における家族の思いに寄り添ったケア	11/25(木)	急性期における家族ケアを学び実践への手掛かりとするための対応方法を身につける。

即実践！伝わる・身につく教え方～OJTの際の指導力、研修の設計力を高めよう～	11/27(土) 11/28(日)	指導方法や評価する技術について理解を深め、OJTに生かすことができる。また、教育計画の作成・評価及び修正について理解し、研修の設計力を高め、組織における看護職員育成のための環境作りに役立つ。
はじめてのプリセプター ～新人の一番近くに～ 【第1回】	12/2(木) 12/3(金)	新人看護師の特徴、プリセプターの役割、プリセプターとして求められる能力を理解し、新人看護師教育のビジョンの明確化と関わり方を学ぶ。
はじめてのプリセプター ～新人の一番近くに～ 【第2回】	1/27(木) 1/28(金)	
慢性心不全患者の看護	12/10(金)	慢性心不全の知識を深め、療養支援の実際を学び、看護実践に生かす。
感染症の最新動向 新興ウイルスと感染予防対策	12/11(土)	感染に対する最新の動向を学び、感染予防対策に生かすことができる。
意思決定支援 ～終末期における輸液・鎮静	12/18(土)	終末期患者やその家族の「輸液・鎮静」に関する意思決定を支える看護師の役割を学ぶ。
実践に生かす！糖尿病の最新知識とセルフケア支援	2022年 1/23(日)	糖尿病について知識を深め、患者ケアや療養指導について学び看護実践能力を高める。
楽しく学ぼう！理解を深めよう！循環器領域の検査データの見方・活かし方	2022年 2/6(日)	循環器疾患に関連する検査データの基礎知識を学び、看護実践に生かすことができる。

分類3 看護管理者が地域包括ケアシステムを推進するための力量形成に向けた継続教育

研 修 名	開催期間	ね ら い
医療安全管理者養成 研修 (日本看護協会主催インターネット配信オンデマンドを活用)	インターネット 配信期間: 7/5(月)～ 2022年 2/10(木) 集合研修: 12/22(水)	医療の質の向上と安全確保を目的とした、医療安全管理業務を遂行するための基本的な知識と実践能力を習得する。
認知症高齢者の看護実践に必要な知識 (JNA収録DVD研修)*「認知症患者のアセスメントや看護方法等に係る適切な研修」	10/18(月) 19(火)	国の施策や医療の現状と入院中の認知症高齢者を適切にケアするための基本的な知識を理解する。
在宅での看取りと多職種連携の実際	9/25(土)	在宅における看取りのケアに必要な知識を学び、多職種と協働した看取りの在り方を学ぶ。
地域での療養を支える外来看護	10/23(土)	地域での療養支援を支える外来看護師の役割を理解し、専門外来の看護介入を学ぶ。
地域包括ケア時代の看護師の役割～退院支援への取り組み～	11/21(日)	多職種・地域との連携を図り、円滑な退院調整、退院支援が行える必要な知識と役割を学ぶ。
看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 改訂版2020(DVD+演習)	2022年 1/27(木)	効率的な業務運営と良質な看護サービスの提供を目的とした看護補助者の業務範囲や教育および就労環境について理解し、自施設における看護補助者体制整備の一助となる。
看護管理の基礎知識	2022年 2/16(水) 17(木)	看護専門職として必要な看護管理に関する基本的な知識を習得する。
認定看護管理者教育課程 セカンドレベルフォローアップ	2022年 2/27(日)	認定看護管理者教育課程受講後の看護管理実践を振り返り、看護管理者としての質の向上を図る。

分類4 専門能力開発を支援するための教育体制の充実にに向けた継続教育

研 修 名	開催期間	ね ら い
看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版)を活用した教育体制における評価の実際	9/19(日)	看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版)を活用した組織における人材育成の取り組みの実際を学び、自施設における教育体制の評価方法に役立つ。

分類5 資格認定教育 認定看護管理者教育課程

教育課程名	開催期間	教育目的・到達目標
認定看護管理者教育課程 第1回 ファーストレベル	5/20(木) ～ 9/26(日)	看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する。 ・ヘルスケアシステムの構造と現状を理解できる。 ・組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析できる。 ・看護管理者の役割と活動を理解し、これからの看護管理者のあり方を考察できる。
認定看護管理者教育課程 第2回 ファーストレベル	10/7(木) ～ 2022年 1/30(日)	
認定看護管理者教育課程セカンドレベル	6/25(金) ～ 12/12(日)	看護管理者として基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する。 ・組織の理念と看護部門の理念の整合性を図りながら担当部署の目標を設定し、達成に向けた看護管理過程を展開できる。 ・保健・医療・福祉サービスを提供するための質管理ができる。

## II. 2021年度受講者概要

1. 研修期間:2021/4/1～2022/3/31

2. 実施研修数:49

### 3. 分類別研修数

	企画数	実施数	定員	応募者数	受講決定数	受講者数
分類1	38	37	2,020	1,381	1,317	1,255
分類3	8	8	470	378	335	324
分類4	1	1	30	22	22	22
分類5	3	3	130	168	138	137
計	50	49	2,650	1,949	1,812	1,738

4. 講義形態数:オンライン44 / オンライン併用4 / オンデマンド+集合1

### 5. 会員の受講状況(支部別)※個人会員含む

	会員数	受講数	%
県南	5,158	668	13.0%
県央	2,486	717	28.8%
県北	2,036	251	12.3%
4離島	476	26	5.5%
総計	10,156	1,662	16.4%

### 6. 会員施設の受講状況

	施設数	受講施設数	%
県南	104	42	40.4%
県央	82	32	39.0%
県北	50	20	40.0%
4離島	28	7	25.0%
総計	264	101	38.3%

### 7. 研修概要一覧

研修No.	研修名	日数	定員	受講者数
1	認定看護管理者教育課程第1回 ファーストレベル	20	50	53
2	認定看護管理者教育課程第2回 ファーストレベル	20	50	52
3	認定看護管理者教育課程セカンドレベル	31	30	33
4	感染管理	4	40	45
5	感染症の基礎知識と感染対策(感染管理研修公開)	0.5	20	16
6	医療安全管理者養成(日本看護協会主催インターネット配信オンデマンド活用) 集合研修	オンデマンド35時間+集合5時間	60	61
7	基礎から学ぶ 呼吸のメカニズムと人工呼吸器【1回目】	1	60	28
8	職業感染防止の実際(感染管理研修公開)	0.5	20	17
9	侵襲的な器具や処置の感染予防策の実際(感染管理研修公開)	1	20	14
10	看護研究の導入・倫理	1	60	26
11	災害支援ナースの第一歩～災害看護の基本的知識～(JNA収録DVD研修)	2	60	35
12	明日から使える! 文献検索法とその実際	1	60	18
13	長崎県の看護の動向と展望	0.5	60	21
14	楽しく学べる! 看護研究に活用できる統計処理の基礎	2	60	21
15	イキイキ中堅ナース	5	40	33
16	悩み解消! 医療現場を取り巻くクレーム対応～コロナ禍のクレーム対応ポイント～	1	60	32
17	認知症高齢者の看護実践に必要な知識(JNA収録DVD研修) *「認知症患者のアセスメントや看護方法等に関する適切な研修」に対応	2	60	59

研修No.	研 修 名	日数	定員	受講者数
18	看護に役立つ摂食嚥下リハビリテーション	1	60	33
19	臨床倫理の基礎 ～倫理的問題への対処方法を学ぶ～	1	60	40
20	基礎から学ぶ 呼吸のメカニズムと人工呼吸器【2回目】	1	60	50
21	運動器疾患と骨折・ロコモ予防の基礎知識	1	60	19
22	看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版)を活用した教育体制における評価の実際【JNAオンデマンド研修】	1	60	12
23	看護の現場ですぐに役立つ看護記録～伝わる記録のコツと書き方～	1	60	54
24	在宅での看取りと多職種連携の実際	1	60	32
25	看護職に求められるリーダーシップ	1	60	47
26	脳血管障害の基礎知識	1	60	36
27	災害支援ナース育成研修【実務編】	1	60	55
28	基礎から理解！認知症高齢者の正しいアセスメントとケア	1	60	35
29	周術期の看護～外来・手術室・病棟看護師における連携とチーム医療～	1	60	17
30	現場に役立つ！褥瘡ケア～最新知識に基づいたケアの実際～	1	60	42
31	がん化学療法基本の理解と予測・対応	1	60	26
32	地域での療養を支える外来看護	0.5	60	17
33	人材育成に活かすコーチングスキル(中堅ナース研修公開)	1	20	20
34	高齢者に安全な薬物療法～他職種連携で進める服薬管理～	1	60	19
35	理解を深めよう！消化器領域の検査データの見かた・活かし方	0.5	60	59
36	がん患者のセルフケア支援～治療期の生活を支えるために～	1	60	23
37	地域包括ケア時代の看護師の役割～退院支援への取り組み～	1	60	53
38	急性期における家族の思いに寄り添ったケア	1	60	40
39	即実践！伝わる・身につく教え方～OJTの際の指導力、研修の設計力を高めよう～	1.5	60	32
40	はじめてのプリセプター～新人の一番近くに～【第1回目】	1.5	60	51
41	慢性心不全患者の看護	1	60	60
42	感染症の最新動向 新興ウィルスと感染予防対策	1	60	50
43	意思決定支援～終末期における輸液・鎮静～	1	60	53
44	実践に生かす！糖尿病の最新知識とセルフケア支援	1	60	44
45	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修改訂版2020(DVD+演習)	1	60	66
46	はじめてのプリセプター～新人の一番近くに～【第2回目】	1.5	60	48
47	【*中止】見直そう！アウトブレイク時の対応～感染管理スキルアップ研修～	1	60	0
48	楽しく学ぼう！理解を深めよう！循環器領域の検査データの見方・活かし方	1	60	58
49	看護管理の基礎知識	2	50	35
50	認定看護管理者教育課程セカンドレベルフォローアップ	0.5	30	22

## 8. 長崎県委託事業

	研 修 会 名	日数	定員	受講者数
1	訪問看護師養成講習会(eラーニング併用)	集合8日/実習3日	30	19
2	長崎県看護職員認知症対応力向上研修	3日	60	58

研修名	感染管理		開催日	2021年6月11日～7月10日																													
講師	プログラム参照		企画	研修センター																													
目的	感染管理の基礎知識を理解し、感染管理を実践するためのリーダーとしての役割遂行能力を養う。																																
目標	1) 感染管理者の役割と必要な専門的知識が理解できる。 2) 感染管理に必要な感染症の基礎知識が理解できる。																																
対象	施設内で感染管理の任にある者、および準ずる者。																																
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者： 71人</td> <td>受講者 45人</td> <td>アンケート回答者数：33人</td> <td>回答率：75%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師：0人、助産師：1人、看護師：32人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台：5人、30歳台：3人、40歳台：19人、50歳台：6人</td> </tr> <tr> <td>施設</td> <td colspan="3">医療施設：30人、在宅関係：3人</td> </tr> <tr> <td>立場</td> <td colspan="3">看護部長：1人、副看護部長：1人、師長：6人、主任：8人、スタッフ：17人</td> </tr> <tr> <td>感染管理役割</td> <td colspan="3">病棟感染管理、コロナウイルス対応担当、施設感染委員会、感染管理責任者</td> </tr> </table>					応募者： 71人	受講者 45人	アンケート回答者数：33人	回答率：75%	職種	保健師：0人、助産師：1人、看護師：32人			年齢	20歳台：5人、30歳台：3人、40歳台：19人、50歳台：6人			施設	医療施設：30人、在宅関係：3人			立場	看護部長：1人、副看護部長：1人、師長：6人、主任：8人、スタッフ：17人			感染管理役割	病棟感染管理、コロナウイルス対応担当、施設感染委員会、感染管理責任者						
応募者： 71人	受講者 45人	アンケート回答者数：33人	回答率：75%																														
職種	保健師：0人、助産師：1人、看護師：32人																																
年齢	20歳台：5人、30歳台：3人、40歳台：19人、50歳台：6人																																
施設	医療施設：30人、在宅関係：3人																																
立場	看護部長：1人、副看護部長：1人、師長：6人、主任：8人、スタッフ：17人																																
感染管理役割	病棟感染管理、コロナウイルス対応担当、施設感染委員会、感染管理責任者																																
研修内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日</th> <th>時</th> <th>内 容</th> <th>講 師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td rowspan="2">6/11 (金)</td> <td>9:30 ～ 12:00</td> <td>感染管理とマネジメント ・リーダーの資質 ・感染管理とは ・現状と問題点 ・感染対策の考え方 ・感染対策予防において看護師の役割 等</td> <td>金澤 美弥子 感染管理 認定看護師</td> </tr> <tr> <td>13:00 ～ 15:30</td> <td>感染予防対策の基本 ・標準予防策・感染経路別予防対策 ・手洗いの基本 ・防御具の基準と使用法・消毒、滅菌の基本</td> <td>森 英恵 感染管理 認定看護師</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6/12 (土)</td> <td>13:30 ～ 16:30</td> <td>感染症の基礎知識と感染対策 ・院内感染症対策について・新型コロナウイルス感染症 ・結核感染症対策、インフルエンザ対策について</td> <td>古本 朗嗣 長崎大学病院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>7/9 (金)</td> <td>13:30 ～ 16:30</td> <td>職業感染防止の実際 ・職業感染防止の背景・針刺し防止対策 ・接触者対策 ・患者環境と感染予防 ・基本ケアと感染予防</td> <td>岡田 美佐子 感染管理 認定看護師</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>7/10 (土)</td> <td>9:30 ～ 15:30</td> <td>侵襲的な器具や処置の感染予防策の実際 ・血流感染予防対策 ・尿路感染予防対策 ・人工呼吸器関連肺炎予防対策・手術部位感染予防対策</td> <td>福井 良枝 感染管理 認定看護師</td> </tr> </tbody> </table>					回	日	時	内 容	講 師	1	6/11 (金)	9:30 ～ 12:00	感染管理とマネジメント ・リーダーの資質 ・感染管理とは ・現状と問題点 ・感染対策の考え方 ・感染対策予防において看護師の役割 等	金澤 美弥子 感染管理 認定看護師	13:00 ～ 15:30	感染予防対策の基本 ・標準予防策・感染経路別予防対策 ・手洗いの基本 ・防御具の基準と使用法・消毒、滅菌の基本	森 英恵 感染管理 認定看護師	2	6/12 (土)	13:30 ～ 16:30	感染症の基礎知識と感染対策 ・院内感染症対策について・新型コロナウイルス感染症 ・結核感染症対策、インフルエンザ対策について	古本 朗嗣 長崎大学病院	3	7/9 (金)	13:30 ～ 16:30	職業感染防止の実際 ・職業感染防止の背景・針刺し防止対策 ・接触者対策 ・患者環境と感染予防 ・基本ケアと感染予防	岡田 美佐子 感染管理 認定看護師	4	7/10 (土)	9:30 ～ 15:30	侵襲的な器具や処置の感染予防策の実際 ・血流感染予防対策 ・尿路感染予防対策 ・人工呼吸器関連肺炎予防対策・手術部位感染予防対策	福井 良枝 感染管理 認定看護師
回	日	時	内 容	講 師																													
1	6/11 (金)	9:30 ～ 12:00	感染管理とマネジメント ・リーダーの資質 ・感染管理とは ・現状と問題点 ・感染対策の考え方 ・感染対策予防において看護師の役割 等	金澤 美弥子 感染管理 認定看護師																													
		13:00 ～ 15:30	感染予防対策の基本 ・標準予防策・感染経路別予防対策 ・手洗いの基本 ・防御具の基準と使用法・消毒、滅菌の基本	森 英恵 感染管理 認定看護師																													
2	6/12 (土)	13:30 ～ 16:30	感染症の基礎知識と感染対策 ・院内感染症対策について・新型コロナウイルス感染症 ・結核感染症対策、インフルエンザ対策について	古本 朗嗣 長崎大学病院																													
3	7/9 (金)	13:30 ～ 16:30	職業感染防止の実際 ・職業感染防止の背景・針刺し防止対策 ・接触者対策 ・患者環境と感染予防 ・基本ケアと感染予防	岡田 美佐子 感染管理 認定看護師																													
4	7/10 (土)	9:30 ～ 15:30	侵襲的な器具や処置の感染予防策の実際 ・血流感染予防対策 ・尿路感染予防対策 ・人工呼吸器関連肺炎予防対策・手術部位感染予防対策	福井 良枝 感染管理 認定看護師																													
まとめ	<p>プログラム4日間の内容は、基本知識と最新情報を抑えながら丁寧にわかりやすい内容であった。受講者は、半数は職位があり、半数は感染管理役割を担っていた。2020年新型コロナウイルス感染症の広がりから、演習を省き、講義形態をオンラインとしたが、受講者の理解度満足度とも高い評価をえた。(下記アンケート結果参照)同時に、実践に活かせるものであった。各講師、受講者双方向での講義は、スムーズで講師のスライドも見やすく、演習ができない手洗いも、画像でしっかりと伝わった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>研修について □できる ■ややできる ▨ふつう ■ややできない ■できない</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>活用度</td> <td>44.86</td> <td>44.24</td> <td>10.92</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>49.08</td> <td>44.26</td> <td>6.68</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>理解度</td> <td>48.46</td> <td>39.4</td> <td>12.16</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div>					項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	活用度	44.86	44.24	10.92			満足度	49.08	44.26	6.68			理解度	48.46	39.4	12.16						
項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																												
活用度	44.86	44.24	10.92																														
満足度	49.08	44.26	6.68																														
理解度	48.46	39.4	12.16																														



研修名	基礎から学ぶ人工呼吸器	開催日	【1回目】2021年7月14日 【2回目】2021年9月9日																																																											
講師	尾野 敏明 (東海大学看護師キャリア支援センター 主任教員)	企画	教育委員会																																																											
ねらい	人工呼吸器を装着している患者ケアの基礎的な知識を学び看護実践に生かす																																																													
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>1回目</td> <td>応募者:28人</td> <td>受講者:27人</td> <td>アンケート回答者数:18人</td> <td>回答率:66.7%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="4">保健師: 人、助産師: 人、看護師: 人、准看護師: 人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="4">20歳台: 4人、30歳台: 5人、40歳台: 7人、50歳台: 2人</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>応募者:50人</td> <td>受講者:49人</td> <td>アンケート回答者数:48人</td> <td>回答率:98.0%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="4">保健師: 1人、助産師: 1人、看護師: 45人、准看護師: 1人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="4">20歳台: 29人、30歳台: 13人、40歳台: 6人、50歳台: 0人</td> </tr> </table>			1回目	応募者:28人	受講者:27人	アンケート回答者数:18人	回答率:66.7%	職種	保健師: 人、助産師: 人、看護師: 人、准看護師: 人				年齢	20歳台: 4人、30歳台: 5人、40歳台: 7人、50歳台: 2人				2回目	応募者:50人	受講者:49人	アンケート回答者数:48人	回答率:98.0%	職種	保健師: 1人、助産師: 1人、看護師: 45人、准看護師: 1人				年齢	20歳台: 29人、30歳台: 13人、40歳台: 6人、50歳台: 0人																																
1回目	応募者:28人	受講者:27人	アンケート回答者数:18人	回答率:66.7%																																																										
職種	保健師: 人、助産師: 人、看護師: 人、准看護師: 人																																																													
年齢	20歳台: 4人、30歳台: 5人、40歳台: 7人、50歳台: 2人																																																													
2回目	応募者:50人	受講者:49人	アンケート回答者数:48人	回答率:98.0%																																																										
職種	保健師: 1人、助産師: 1人、看護師: 45人、准看護師: 1人																																																													
年齢	20歳台: 29人、30歳台: 13人、40歳台: 6人、50歳台: 0人																																																													
研修内容	<p>Zoomを使用したオンラインで実施した。研修内容は、前半は呼吸生理に関する内容、後半は人工呼吸の役割と基本的構造に関する内容であった。前半の呼吸生理に関する内容は、主に「気圧と分圧」「PaO<sub>2</sub>が示す記号の意味」「ガス交換や酸素運搬」「ガス交換障害と人工呼吸時の生理」であった。酸素飽和度(%)と酸素分圧(mmHg)の値の関係性、ガス交換が障害される原因となる換気・拡散・血流の関係性、肺胞低換気・拡散障害・換気血流比不均等分布(V/Qミスマッチ)の病態について説明された。これらの病態をふまえ、換気血流量を変えるためには45~60度の体位調整が有効であること、肺水腫に対しても体位ドレナージ、特に長時間(16時間以上)の腹臥位が有効であることが説明された。後半の人工呼吸器の役割と基本的構造に関する内容は、正常な呼吸状態、4つの時相としての「吸気時間」「ポーズ時間」「呼気時間」「休止時間」、肺気量分画について説明があった。酸素化の指標となるP/Fレシオの算出方法は、例題を用いて受講者全員で計算する演習形式で実施された。血ガスの見方やpHからアシドーシスもしくはアルカローシス、呼吸性あるいは代謝性を判断する方法の説明後、例題を用いて受講生全員で回答する演習形式で実施された。人工呼吸器設定は、基本的な換気モードとして、換気モード・強制換気の吸気方式・自発呼吸の補助の3つそれぞれについて、換気様式やPEEPについての説明があった。人工呼吸器のアラーム対応では、フィジカルアセスメント、特に患者の身体で起こっている異常を見極める能力が重要であること、急変回避に必要な観察ポイントの説明があった。また、急変の8時間以上前には5~6割の患者に呼吸の異常があるといわれているため、呼吸回数は必ず観察することが強調された。実際に音声を聞きながら呼吸音の分類について説明された。人工呼吸器アラーム、人工呼吸器離脱プロトコル、抜管時カフリークテストや抜管の検討評価についての説明があった。</p>																																																													
まとめ	<p>受講者は20歳代~50歳代と幅広く、受講希望者も多かった。今後の活用については看護実践と答えた者が最も多く、理解度・満足度・活用度共に評価が高く、研修のねらいは達成できたと考える。講師の説明はとて分かりやすく受講者のニーズと実践に沿った内容であった。</p>																																																													
	<table border="1"> <tr> <td colspan="5">1回目</td> </tr> <tr> <td></td> <td>□できる</td> <td>■ややできる</td> <td>■ふつう</td> <td>□ややできない</td> <td>■できない</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td>30%</td> <td>40%</td> <td>50%</td> <td>60%</td> <td>70%</td> <td>80%</td> <td>90%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>理解度</td> <td colspan="11">16.7%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td colspan="11">44.4%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td colspan="11">38.9%</td> </tr> </table>			1回目						□できる	■ややできる	■ふつう	□ややできない	■できない		0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	理解度	16.7%											満足度	44.4%											活用度	38.9%										
1回目																																																														
	□できる	■ややできる	■ふつう	□ややできない	■できない																																																									
	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%																																																			
理解度	16.7%																																																													
満足度	44.4%																																																													
活用度	38.9%																																																													
	<table border="1"> <tr> <td colspan="5">2回目</td> </tr> <tr> <td></td> <td>□できる</td> <td>■ややできる</td> <td>■ふつう</td> <td>□ややできない</td> <td>■できない</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td>30%</td> <td>40%</td> <td>50%</td> <td>60%</td> <td>70%</td> <td>80%</td> <td>90%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>理解度</td> <td colspan="11">31.3%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td colspan="11">52.1%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td colspan="11">50.0%</td> </tr> </table>			2回目						□できる	■ややできる	■ふつう	□ややできない	■できない		0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	理解度	31.3%											満足度	52.1%											活用度	50.0%										
2回目																																																														
	□できる	■ややできる	■ふつう	□ややできない	■できない																																																									
	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%																																																			
理解度	31.3%																																																													
満足度	52.1%																																																													
活用度	50.0%																																																													

研修名	看護研究の導入・倫理		開催日	2021年7月21日																								
講師	大重 育美 (長崎県立大学シーボルト校)		企画	教育委員会																								
ねらい	看護研究に必要な知識と研究倫理の歴史、研究倫理の項目について学ぶ。																											
受講者概要	応募者:26人	受講者:26人	アンケート回答者数:25人	回答率:96.2%																								
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:25人、准看護師:0人																										
	年齢	20歳台:人、30歳台:人、40歳台:人、50歳台:人																										
研修内容	<p>zoomを使用したオンラインで実施した。</p> <p>研修内容は、前半は看護研究を実施する上で必要な知識に関する内容、後半は看護研究における倫理と倫理的配慮に関する内容であった。前半の看護研究を実施する上で必要な知識は、研究テーマの見つけ方、先行研究の確認、研究計画書の作成方法について説明された。先行研究分析の際は、自分がしたい研究の意義、新規性、実現可能性の3条件を焦点にあて分析する必要がある。また、研究テーマの絞り込みでは「PIKO:患者・対象、介入、比較、結果・効果」、研究計画書は「FINER:実現可能性、化学的な興味深さ、新規性、倫理性、必要性、社会的な意味」の考えで絞り込んでいく必要があること、看護研究計画書に記載する項目について詳細に解説された。</p> <p>後半の、看護研究における倫理と倫理的配慮に関する内容は、看護職の倫理綱領をベースに看護研究を設計していく必要性、研究倫理審査委員会の流れや必要な書類について説明された。高齢者の尊厳に関わる看護場面について、事例を通し実際の行動を考える演習が設定され、日頃の看護を通じその人を尊重することの重要性や研究倫理に十分配慮した上で看護研究を進めていくこと重要性が強調された。</p> <p>受講概要、アンケート結果より、20～50歳代と幅広い年代の方の参加であった。「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」が60-70%であった。研修全体の学び・感想では「資料も講義も解りやすかった」「実践的に役立つ内容で即、使わせてもらおうと思う」とあり、研修のねらいは達成できたと思われる。しかし、10%台が「ややできない」と回答しており、「言葉が難しく、ついていくのが精一杯であった」という意見があった。</p> <p>オンライン受講については、接続テストや研修でのトラブル発生は「無」と回答した受講者は80%台であった。トラブルが発生した内容は、Wi-Fi接続が不安定であり音声聞き取れなかったという内容があった。初めてオンライン研修に参加する受講者もあり「移動時間が不要でよかった」「自宅で気軽に受けられた」「対面との差も特に感じなかった」と肯定的意見が多かった。</p> <p>全体を通し、基礎的な研究遂行能力育成のために必要な単元であり、受講者のニーズに合致した研修内容であった。講師の説明は理解しやすく即実践につながる内容であった。看護職者の看護研究への支援体制充実のためにも、継続研修としていきたい。</p>																											
まとめ	<p><b>研修について</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>24.0%</td> <td>36.0%</td> <td>28.0%</td> <td>12.0%</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>24.0%</td> <td>44.0%</td> <td>20.0%</td> <td>12.0%</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>32.0%</td> <td>40.0%</td> <td>24.0%</td> <td>4.0%</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table>				項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	理解度	24.0%	36.0%	28.0%	12.0%	0.0%	満足度	24.0%	44.0%	20.0%	12.0%	0.0%	活用度	32.0%	40.0%	24.0%	4.0%	0.0%
項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																							
理解度	24.0%	36.0%	28.0%	12.0%	0.0%																							
満足度	24.0%	44.0%	20.0%	12.0%	0.0%																							
活用度	32.0%	40.0%	24.0%	4.0%	0.0%																							

研修名	明日から使える！文献検索法とその実際	開催日	2021年7月28日												
講師	大重 育美 (長崎県立大学シーボルト校)	企画	教育委員会												
ねらい	研究テーマに結びつけた文献検索の方法を学ぶ。														
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:18人</td> <td>受講者:13人</td> <td>アンケート回答者数:13人</td> <td>回答率:100%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:13人、准看護師:0人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳代:6人、30歳代:3人、40歳代:2人、50歳代:2人</td> </tr> </table>			応募者:18人	受講者:13人	アンケート回答者数:13人	回答率:100%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:13人、准看護師:0人			年齢	20歳代:6人、30歳代:3人、40歳代:2人、50歳代:2人		
応募者:18人	受講者:13人	アンケート回答者数:13人	回答率:100%												
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:13人、准看護師:0人														
年齢	20歳代:6人、30歳代:3人、40歳代:2人、50歳代:2人														
研修内容	<p>zoomを使用したオンラインで実施した。</p> <p>研修は、前半はパワーポイントを用いた講義、後半は小グループでのGWであった。前半の講義内容は、文献テーマに結びつけた文献検索の方法、文献検索の意義、検索のポイント(シソーラス検索)、オンラインデータベースの活用(医学中央雑誌、J-STAGA、CiNii)、文献クリティークの方法であった。</p> <p>後半のGWは、3~4名の小グループに分かれて、クリティークチェックシートに沿って実際の研究論文(質的研究・量的研究)をクリティークした。論文1編につき40分程度のグループワーク、20分程度の発表が行われた。</p>														
まとめ	<p>受講予定者18名のうち研修当日5名欠席となり、13名の出席であった(内訳:体調不良4名、接続不良1名)。午前中はパワーポイントを用いた講義であったが、研修当初ノート表示となっており、スマートフォンでの受講者は画面が小さかったと推定される。研修途中で講師へ伝え通常画面へと変更できた。スライドは配布資料として事前配布していたため特に受講者からの指摘はなかった。講義中、講師からの発問に対し受講者が積極的に回答しており、活発な研修となった。</p> <p>午後からのグループワークでは、最初なかなか活動がすすまないグループを認めたが、時間経過とともにほとんどのグループが活動できていた。3名少人数のグループではなかなか意見を出しづらいため、5名程度の人数での実施を今後は検討する。また、事後アンケートでも意見として挙がっていたが、グループ活動が起動に乗るまではファシリテーターを設置する方法も検討する。</p> <p>アンケート結果より、20~50歳代と幅広い年代の方の参加であった。「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」が77-92%であり、満足度の高い研修であったと考える。しかし、応募者・受講者が他の研修に比べると少数であり、その理由として新型コロナウイルス感染拡大により看護研究にける時間が確保できず、看護研究の学習への需要が少なかった可能性が考えられる。看護研究に関する研修は今後の看護の発展には必要不可欠であるため、継続研修としていく。</p>														
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>研修について</b></p> <p>□できる    ■ややできる    ▨ふつう    □ややできない    ■できない</p> <p>0%   10%   20%   30%   40%   50%   60%   70%   80%   90%   100%</p> <table border="1"> <tr> <td>理解度</td> <td>38.5%</td> <td>38.5%</td> <td>23.1%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>46.2%</td> <td>46.2%</td> <td>7.7%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>38.5%</td> <td>46.2%</td> <td>15.4%</td> </tr> </table> </div>			理解度	38.5%	38.5%	23.1%	満足度	46.2%	46.2%	7.7%	活用度	38.5%	46.2%	15.4%
理解度	38.5%	38.5%	23.1%												
満足度	46.2%	46.2%	7.7%												
活用度	38.5%	46.2%	15.4%												

研修名	長崎県の看護の動向と展望	開催日	2021年8月1日												
講師	野中 伸子 (長崎県福祉保健部医療人材対策室)	企画	教育委員会												
ねらい	看護を取り巻く環境の変化・動向を学ぶ。														
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:21人</td> <td>受講者:18人</td> <td>アンケート回答者数:17人</td> <td>回答率:94.4%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:2人、助産師:0人、看護師:15人、准看護師:0人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:0人、30歳台:0人、40歳台:8人、50歳台:8人、60歳台:1人</td> </tr> </table>			応募者:21人	受講者:18人	アンケート回答者数:17人	回答率:94.4%	職種	保健師:2人、助産師:0人、看護師:15人、准看護師:0人			年齢	20歳台:0人、30歳台:0人、40歳台:8人、50歳台:8人、60歳台:1人		
応募者:21人	受講者:18人	アンケート回答者数:17人	回答率:94.4%												
職種	保健師:2人、助産師:0人、看護師:15人、准看護師:0人														
年齢	20歳台:0人、30歳台:0人、40歳台:8人、50歳台:8人、60歳台:1人														
研修内容	<p>Zoomを使用したオンラインで実施した。</p> <p>研修内容は、長崎県の看護行政組織「長崎県総合計画チェンジ、チャレンジ2025における看護職員確保対策」、長崎県の看護の現状、長崎県の看護職員数・看護職員に係る県の対策・看護職員養成状況・離職状況・再就業、看護職員確保対策の課題、看護を取り巻く環境、社会保障制度改革、長崎県地域医療構想などが説明された。</p> <p>最後に、看護職員需給推計に基づき、看護職員の就業数、就業場所、都道府県別の看護師数、雇用形態の変化が説明され、看護教育の動向、看護基礎教育課程の変化が説明された。</p>														
まとめ	<p>今回の研修の受講者は18名であった。概要は看護師が88.2% 保健師が11.8%であり、年齢は40歳台47.1%、50歳台が47.1%、60歳台6%であった。「理解度」「満足度」「活用度」すべての項目において「できる・ややできる」が100%であった。また「長崎県の医療の現状、今後の問題点について理解できた」「人材不足、少子高齢化が深く結びついていることが理解できた」などの感想も聞かれ、受講者が満足できる内容であったと考える。研修の内容から、参加年齢が40歳台以上と経験件数が長い看護師、管理者の参加が多かったように感じられる。</p> <p>看護師のみではなく、医療、介護全体で行政を巻き込み、長崎県の医療体制を高めていくことが大切である。また、より良い人材確保のためにも、看護基礎教育課程にも目を向ける必要があると感じた。</p> <p>今回の研修は出欠確認、受講者の名前変更に時間を要した。しかし、受講者数が18人の少なかったため、時間通りに開始することができた。オンライン受講に関するトラブルは認めなかった。</p> <p>看護職者として長崎県内の医療情勢や看護の実態を理解しておくことが重要である。しかしながら、本協会の基本方針である看護の専門職業人としてのキャリア開発への支援という点から鑑みると、他の教育委員が担当する研修とは性質が異なる。今後も継続研修とするか要検討である。</p>														
	<div data-bbox="293 1704 1501 2011" data-label="Figure"> <p><b>研修について</b></p> <p>□できる    ■ややできる    ▨ふつう    ▩ややできない    ■できない</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>52.9%</td> <td>47.1%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>47.1%</td> <td>52.9%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>35.3%</td> <td>64.7%</td> </tr> </tbody> </table> </div>			項目	できる	ややできる	理解度	52.9%	47.1%	満足度	47.1%	52.9%	活用度	35.3%	64.7%
項目	できる	ややできる													
理解度	52.9%	47.1%													
満足度	47.1%	52.9%													
活用度	35.3%	64.7%													

研修名	楽しく学べる！ 看護研究に活用できる統計処理の基礎	開催日	2021年8月4日～8月5日																								
講師	中野 正博 (新医療統計研究所)	企画	教育委員会																								
ねらい	看護研究に活用できる統計学の基礎を理解し、統計処理方法の実際を学ぶ。																										
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:21人</td> <td>受講者:21人</td> <td>アンケート回答者数:21人</td> <td>回答率:100%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:1人、助産師:0人、看護師:20人、准看護師:0人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:7人、30歳台:8人、40歳台:2人、50歳台:4人</td> </tr> </table>			応募者:21人	受講者:21人	アンケート回答者数:21人	回答率:100%	職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:20人、准看護師:0人			年齢	20歳台:7人、30歳台:8人、40歳台:2人、50歳台:4人														
応募者:21人	受講者:21人	アンケート回答者数:21人	回答率:100%																								
職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:20人、准看護師:0人																										
年齢	20歳台:7人、30歳台:8人、40歳台:2人、50歳台:4人																										
研修内容	<p>Zoomを使用したオンラインで実施した。2日間のスケジュールで、1日目・2日目午前は講義、2日目午後はパソコンを用いた演習が行われた。</p> <p>講師が監修した「看護・保険・医療のための楽しい統計学」のテキストを受講者に事前購入してもらい、そのテキストの内容を抜粋したパワーポイントを用いて行われた。講義内容は、1日目は統計に関する基礎（母集団、サンプリング、正規分布、データの種類、図・表）、看護研究（タイプ、テーマの設定、文献検索、計画書作成、アンケート作成）であった。2日目午前にはデータの分析の特徴（分数と標準偏差、正規分布、中央値とパーセンタイル、箱ひげ図、偏差値、上位確立）、検定の基本（帰無仮説、対立仮説、検定は確率で行う、P値）、検定方法・帰無仮説のまとめ、パラメトリック検定とノンパラメトリック検定等であった。</p> <p>2日目午後の演習は、事前に講師の受講者に配布した統計ソフトを用いて、WEB上で共有画面にし、講師の指示のもとパソコン操作していく形式で実施された。</p>																										
まとめ	<p>今回の研修の受講者は21名であった。「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」が約76～86%であり、研修のねらいは達成できたと判断する。</p> <p>初日の開始時に講師のパワーポイントが上手く表示されないトラブルがあり開始時間がやや遅れたが、その後はパワーポイントの問題はなかった。1日目、Wi-Fi環境不良で何度も入退室を繰り返す受講者がいた。また、講師から出題された問題に対し受講者が回答を用紙に記載し、その用紙をカメラに向けて講師へ見せるという形をとられたが、字が小さかったりピントがズレたりして講師へ伝わりにくいことがあった。事前にネームペンなどの準備も必要であった。質疑応答は、講師が適宜受講者へ質問し、受講者が対応する形であった。時々受講者からの質問があり、その都度直接講師が回答した。また、単元ごとに学びを確認するセルフリフレクションの時間が設けられ、受講後のアンケートから「頭の整理にもなりよかった」との感想があった。本講義は初めてWEB開催となったが、講師から「表情がよく見えてよい、受講者は質問がしやすかったのではないかな」などの評価を頂いた。個人指導を受ける時間を設けられていたが、その時間他の受講者が何も出来ない状態となっていたため、個人指導の方法について今後検討が必要であると考える。</p>																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>研修について</th> <th>□できる</th> <th>■ややできる</th> <th>□ふつう</th> <th>□ややできない</th> <th>■できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>19.0%</td> <td>57.1%</td> <td>19.0%</td> <td>4.8%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>57.1%</td> <td>28.6%</td> <td>9.5%</td> <td>4.8%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>61.9%</td> <td>23.8%</td> <td>9.5%</td> <td>4.8%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			研修について	□できる	■ややできる	□ふつう	□ややできない	■できない	理解度	19.0%	57.1%	19.0%	4.8%		満足度	57.1%	28.6%	9.5%	4.8%		活用度	61.9%	23.8%	9.5%	4.8%	
研修について	□できる	■ややできる	□ふつう	□ややできない	■できない																						
理解度	19.0%	57.1%	19.0%	4.8%																							
満足度	57.1%	28.6%	9.5%	4.8%																							
活用度	61.9%	23.8%	9.5%	4.8%																							

研修名	イキイキ中堅ナース	開催日	2021年8月6日～10月29日																												
講師	プログラム参照	企画	研修センター																												
目的	中堅看護職員として期待される役割を自覚し、その役割を実践するために必要な知識・技術を確認・習得する。																														
目標	1) 看護実践者としてスタッフに対しモデル的役割が果たせ、看護技術の指導ができる。 2) 新人看護職員に日常生活援助技術を安全・確実・効率的に実施できるよう指導ができる。 3) 新人看護職員・実地指導者・プリセプターの支援ができる。																														
対象	経験5年以上の看護師、助産師、保健師（管理者は除く）																														
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:33人</td> <td>受講者 33人</td> <td>アンケート回答者数:32人</td> <td>回答率:97%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:1人、看護師:31人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:5人、30歳台:18人、40歳台:9人、50歳台:0人</td> </tr> <tr> <td>施設</td> <td colspan="3">医療施設:31人、福祉施設:1人</td> </tr> <tr> <td>経験年数</td> <td colspan="3">5年:1人、6～10年:15人、11～15年:9人、16年以上:7人</td> </tr> </table>			応募者:33人	受講者 33人	アンケート回答者数:32人	回答率:97%	職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:31人			年齢	20歳台:5人、30歳台:18人、40歳台:9人、50歳台:0人			施設	医療施設:31人、福祉施設:1人			経験年数	5年:1人、6～10年:15人、11～15年:9人、16年以上:7人										
応募者:33人	受講者 33人	アンケート回答者数:32人	回答率:97%																												
職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:31人																														
年齢	20歳台:5人、30歳台:18人、40歳台:9人、50歳台:0人																														
施設	医療施設:31人、福祉施設:1人																														
経験年数	5年:1人、6～10年:15人、11～15年:9人、16年以上:7人																														
研修内容	<p>Zoom も用いたオンライン研修で実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日</th> <th>時</th> <th>内 容</th> <th>講 師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>8/6 (金)</td> <td>13:00 15:30</td> <td>中堅ナースへの期待 ・専門職とはキャリアとは・中堅看護師に求められる役割</td> <td rowspan="2">飯野英親 福岡看護 大学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>8/7 (土)</td> <td>9:30～ 15:30</td> <td>中堅ナースのキャリア支援～自己の看護人生を描く～ ・中堅ナースに必要なリーダーシップ ・自己の看護の原点を振り返る ・キャリアデザインとは ・今後の自己のキャリア発達を実現するために</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>9/10 (金)</td> <td>9:30～ 15:30</td> <td>安全で良質な看護を提供するために～チームで作る安全文化 ・組織における中堅ナースの位置づけおよび役割確認 ・看護手順の意義及び作成の根拠、効果的活用法 ・リスクマネジメントの視点で看護手順をとらえる</td> <td>岩田直美 光晴会病院</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10/28 (木)</td> <td>9:30～ 15:30</td> <td>中堅ナースだからできる人材育成 ・「新人看護職員研修ガイドライン」の考え方 ・新人看護職員研修における各担当者の役割 ・院内教育計画と新人看護職員研修体制 ・新人看護職員の特徴と支援体制・新人を育てる風土づくり等 ・新人看護師・実地指導者、プリセプターの支援の実際</td> <td rowspan="2">江藤節代 NPO 法人 日本看護 キャリア開 発センター</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10/29 (金)</td> <td>9:30～ 15:30 *公開</td> <td>人材育成に活かすコーチングスキル ・コーチングの概要、構造、コーチングスキルの実際（演習） ・人材育成に役立つコーチング</td> </tr> </tbody> </table>			回	日	時	内 容	講 師	1	8/6 (金)	13:00 15:30	中堅ナースへの期待 ・専門職とはキャリアとは・中堅看護師に求められる役割	飯野英親 福岡看護 大学	2	8/7 (土)	9:30～ 15:30	中堅ナースのキャリア支援～自己の看護人生を描く～ ・中堅ナースに必要なリーダーシップ ・自己の看護の原点を振り返る ・キャリアデザインとは ・今後の自己のキャリア発達を実現するために	3	9/10 (金)	9:30～ 15:30	安全で良質な看護を提供するために～チームで作る安全文化 ・組織における中堅ナースの位置づけおよび役割確認 ・看護手順の意義及び作成の根拠、効果的活用法 ・リスクマネジメントの視点で看護手順をとらえる	岩田直美 光晴会病院	4	10/28 (木)	9:30～ 15:30	中堅ナースだからできる人材育成 ・「新人看護職員研修ガイドライン」の考え方 ・新人看護職員研修における各担当者の役割 ・院内教育計画と新人看護職員研修体制 ・新人看護職員の特徴と支援体制・新人を育てる風土づくり等 ・新人看護師・実地指導者、プリセプターの支援の実際	江藤節代 NPO 法人 日本看護 キャリア開 発センター	5	10/29 (金)	9:30～ 15:30 *公開	人材育成に活かすコーチングスキル ・コーチングの概要、構造、コーチングスキルの実際（演習） ・人材育成に役立つコーチング
回	日	時	内 容	講 師																											
1	8/6 (金)	13:00 15:30	中堅ナースへの期待 ・専門職とはキャリアとは・中堅看護師に求められる役割	飯野英親 福岡看護 大学																											
2	8/7 (土)	9:30～ 15:30	中堅ナースのキャリア支援～自己の看護人生を描く～ ・中堅ナースに必要なリーダーシップ ・自己の看護の原点を振り返る ・キャリアデザインとは ・今後の自己のキャリア発達を実現するために																												
3	9/10 (金)	9:30～ 15:30	安全で良質な看護を提供するために～チームで作る安全文化 ・組織における中堅ナースの位置づけおよび役割確認 ・看護手順の意義及び作成の根拠、効果的活用法 ・リスクマネジメントの視点で看護手順をとらえる	岩田直美 光晴会病院																											
4	10/28 (木)	9:30～ 15:30	中堅ナースだからできる人材育成 ・「新人看護職員研修ガイドライン」の考え方 ・新人看護職員研修における各担当者の役割 ・院内教育計画と新人看護職員研修体制 ・新人看護職員の特徴と支援体制・新人を育てる風土づくり等 ・新人看護師・実地指導者、プリセプターの支援の実際	江藤節代 NPO 法人 日本看護 キャリア開 発センター																											
5	10/29 (金)	9:30～ 15:30 *公開	人材育成に活かすコーチングスキル ・コーチングの概要、構造、コーチングスキルの実際（演習） ・人材育成に役立つコーチング																												
まとめ	<p>プログラム5日間の内容は、中堅ナースの役割、中堅ナースに必要なリーダーシップとマネジメントから始まり、看護実践者モデルとなるために必要な技術となる根拠を持った指導、中堅ナースだからできる人材育成とコーチングスキルを深めた。受講者の8割が20～30歳台で、7割は10年～15年の経験年数であった。約半数が職務命令で施設の院内教育プログラム化されている施設もあった。グループワークも効果的に実施することができた。受講者アンケートでも本研修の活用度は8割ができると回答から、中堅ナースとしてのスキルを十分に学習できたと評価できる。</p>																														
	<p><b>研修について</b></p> <p>□できる ■ややできる ▣ふつう □ややできない ▣できない</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>活用度</td> <td>50%</td> <td>31%</td> <td>13%</td> <td>4%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>51%</td> <td>28%</td> <td>15%</td> <td>4%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>理解度</td> <td>48%</td> <td>30%</td> <td>16%</td> <td>4%</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>			項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	活用度	50%	31%	13%	4%	2%	満足度	51%	28%	15%	4%	2%	理解度	48%	30%	16%	4%	2%				
項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																										
活用度	50%	31%	13%	4%	2%																										
満足度	51%	28%	15%	4%	2%																										
理解度	48%	30%	16%	4%	2%																										

研修名	悩み解消！医療現場を取り巻くクレーム対応～コロナ禍のクレーム対応ポイント～	開催日	2021年8月21日												
講師	依光 朋子 (株式会社 話し方教育センター)	企画	教育委員会												
ねらい	医療現場で起きているトラブルに関する最近の動向を知り、クレームに向き合う姿勢・技術を学ぶ。														
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:32人</td> <td>受講者:30人</td> <td>アンケート回答者数:30人</td> <td>回答率:100%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:2人、助産師:0人、看護師:26人、准看護師:2人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:7人、30歳台:3人、40歳台:12人、50歳台:8人</td> </tr> </table>			応募者:32人	受講者:30人	アンケート回答者数:30人	回答率:100%	職種	保健師:2人、助産師:0人、看護師:26人、准看護師:2人			年齢	20歳台:7人、30歳台:3人、40歳台:12人、50歳台:8人		
応募者:32人	受講者:30人	アンケート回答者数:30人	回答率:100%												
職種	保健師:2人、助産師:0人、看護師:26人、准看護師:2人														
年齢	20歳台:7人、30歳台:3人、40歳台:12人、50歳台:8人														
研修内容	<p>Zoomを使用したオンラインで実施した。本研修より教育委員もオンラインで参加・運営した。</p> <p>前半は、具体的な事例を用いてクレームへの基本姿勢やクレーム解消への流れについてグループワークを行いながら説明された。クレームは出さない努力、拡大させない努力、繰り返さない努力が必要であり、対象者との信頼関係構築の上で対応をすることが求められる。接遇を含めた少しの配慮がクレーム予防につながる。また、クレーム対応時は、まずは対応するための環境を作り、感情の鎮静化を図り内容を把握する。ただ聞くわけではなく、質問の仕方やあいづちなど工夫しながら詳細を把握する。そのあと、対象者が納得いくまで対処の仕方を説明、提案する。最後に、感謝の気持ちを伝えるようにした方がよいことが説明された。講義後に、①これまでに体験した、または、見てきたクレームの事例(具体的な事案、具体的な対応、効果を生んだ対応、難しかったこと)、②クレーム対応中にすべきこと、してはいけないことについて、グループワークを行い、知識の共有を図った。Zoomでのグループワークではあったが、活発に意見交換が行われていた。</p> <p>後半はクレーム対応時のスキルについての講義があった。対象者の話の聞き方では、相手の気持ちを知り、相手が何を言おうとしているのか、その核をとらえることが必要であること、まずは相手の感情の鎮静化を図り、相手の話をきちんと聞いている姿勢が大切であることが説明された。また、話し方では、すぐに問題解決に走らず、相手の心情に同意した対応を行うことが大切であることが説明された。午前引き続き、グループワークも行われた。</p> <p>今回の研修の受講者は30名であった。日頃からクレームへ対応する機会のある受講者が多く、事後アンケートでは今回の研修内容は現場ですぐに活用できるとの意見が多かった。今後の活用については看護実践42.2%、スタッフ教育23.4%であった。</p> <p>オンラインでのグループワークは、一部の受講者から対面と違って意見交換は難しいとの意見があったが、グループワークを通して意見を共有できたという意見も多数認めた。今回、初めてオンライン研修を受講した受講者が多かったが、「対面ではパワーポイントが見えにくかったり、声が聞き取りにくかったりすることがあるが、オンラインだと講師の表情も良く見え、近くに感じられる」のような肯定的な意見があった。</p>														
まとめ	<p>今回の研修の受講者は30名であった。日頃からクレームへ対応する機会のある受講者が多く、事後アンケートでは今回の研修内容は現場ですぐに活用できるとの意見が多かった。今後の活用については看護実践42.2%、スタッフ教育23.4%であった。</p> <p>オンラインでのグループワークは、一部の受講者から対面と違って意見交換は難しいとの意見があったが、グループワークを通して意見を共有できたという意見も多数認めた。今回、初めてオンライン研修を受講した受講者が多かったが、「対面ではパワーポイントが見えにくかったり、声が聞き取りにくかったりすることがあるが、オンラインだと講師の表情も良く見え、近くに感じられる」のような肯定的な意見があった。</p>														
	<p><b>研修について</b></p> <p>□できる    ■ややできる    □ふつう    □ややできない    ■できない</p> <p>0%    10%    20%    30%    40%    50%    60%    70%    80%    90%    100%</p> <table border="1"> <tr> <td>理解度</td> <td>83.3%</td> <td>16.7%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>80.0%</td> <td>16.7%</td> <td>3.3%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>76.7%</td> <td>23.3%</td> </tr> </table>			理解度	83.3%	16.7%	満足度	80.0%	16.7%	3.3%	活用度	76.7%	23.3%		
理解度	83.3%	16.7%													
満足度	80.0%	16.7%	3.3%												
活用度	76.7%	23.3%													

研修名	看護に役立つ摂食嚥下リハビリテーション	開催日	2021年9月4日																								
講師	山口 美菜子 (地方独立行政法人長崎県立病院機構 長崎みなとメディカルセンター)	企画	教育委員会																								
ねらい	患者のQOL向上に向けた摂食嚥下リハビリテーションの方法を理解し、看護実践へ生かす。																										
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:33人</td> <td>受講者:32人</td> <td>アンケート回答者数:31人</td> <td>回答率:96.9%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:29人、准看護師:1人、その他:1名</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:9人、30歳台:8人、40歳台:8人、50歳台:6人</td> </tr> </table>			応募者:33人	受講者:32人	アンケート回答者数:31人	回答率:96.9%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:29人、准看護師:1人、その他:1名			年齢	20歳台:9人、30歳台:8人、40歳台:8人、50歳台:6人														
応募者:33人	受講者:32人	アンケート回答者数:31人	回答率:96.9%																								
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:29人、准看護師:1人、その他:1名																										
年齢	20歳台:9人、30歳台:8人、40歳台:8人、50歳台:6人																										
研修内容	<p>Zoomを使用したオンラインで実施した。教育委員もオンラインで参加・運営した。</p> <p>研修内容は、前半は咀嚼嚥下のメカニズムや咀嚼嚥下機能が低下する疾患や症状の基礎的な内容、後半は主に摂食嚥下訓練法に関する内容であった。前半の具体的内容は、物を食べるメカニズム、摂食嚥下のメカニズム、機能的嚥下障害と脳神経疾患や症状との関係、摂食嚥下評価法、摂食嚥下訓練法であった。異常のある嚥下に関しては、嚥下内視鏡検査および嚥下造影検査の動画映像を用いて説明された。</p> <p>後半の具体的内容は、間接訓練および直接訓練に関して訓練方法・訓練時の留意点の説明があった。他には実際の食事時のポジショニングを含めた援助の方法、食事介助時の注意点、異常時の対処法等であった。誤嚥の原因は多くの場合ポジショニング不良であること、食事援助での一口が患者に与える影響について強調された。</p> <p>最後に、75歳以上の高齢者に増加傾向にあるフレイルに関して、栄養障害、嚥下障害との関連について説明がされた。</p>																										
まとめ	<p>今回の研修の受講者は32名であった。講義が早めに進行したため、終了予定時間よりも早い時間で質疑応答となったが、「理解度」「満足度」「活用度」では、「できる・ややできる」が90%以上であった。研修全体の学び・感想では「様々な知識を知ることができ、日々の看護実践に活かしていきたいと感じました。」「とても分かりやすい講義で、早速明日から実践に活かせる内容で、非常に充実した研修になりました。病棟のスタッフに伝達していきたいと思います。」とあり、研修のねらいは達成できたと判断する。</p> <p>オンライン受講については、接続テストや研修でのトラブル発生は「無」と回答した受講者は87%であった。トラブル発生の内容は、研修途中での接続不良、受講者番号への変更方法不明であった。講師の発言中に軽度雑音を認めたが、研修への影響はなかった。</p> <p>本研修の感想として、終了予定時間より早く講義内容が終了したことに加え、受講者からの質問がなかなか出なかった。委員から質問をするという対応をとったが、最後の時間が間延びしてしまった。次年度は、午前中の基礎的な内容をもう少し詳細に説明してもらうように講師へ依頼する。</p>																										
	<p><b>研修について</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>61.3%</td> <td>35.5%</td> <td>3.2%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>83.9%</td> <td>16.1%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>74.2%</td> <td>25.8%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	理解度	61.3%	35.5%	3.2%	0%	0%	満足度	83.9%	16.1%	0%	0%	0%	活用度	74.2%	25.8%	0%	0%	0%
項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																						
理解度	61.3%	35.5%	3.2%	0%	0%																						
満足度	83.9%	16.1%	0%	0%	0%																						
活用度	74.2%	25.8%	0%	0%	0%																						



研修名	臨床倫理の基礎～倫理的問題への対処方法を学ぶ～	開催日	2021年9月5日																								
講師	中尾 久子 (第一薬科大学)	企画	教育委員会																								
ねらい	医療・看護における倫理の基礎を理解し、事例を通して倫理的問題に気付くための方法と解決方法を理解する。																										
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:40人</td> <td>受講者:40人</td> <td>アンケート回答者数:34人</td> <td>回答率:85.0%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:1人、看護師:33人、准看護師:0人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:3人、30歳台:3人、40歳台:18人、50歳台:10人</td> </tr> </table>			応募者:40人	受講者:40人	アンケート回答者数:34人	回答率:85.0%	職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:33人、准看護師:0人			年齢	20歳台:3人、30歳台:3人、40歳台:18人、50歳台:10人														
応募者:40人	受講者:40人	アンケート回答者数:34人	回答率:85.0%																								
職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:33人、准看護師:0人																										
年齢	20歳台:3人、30歳台:3人、40歳台:18人、50歳台:10人																										
研修内容	<p>Zoomを使用したオンラインで実施した。教育委員もオンラインで参加・運営した。</p> <p>研修内容は、1 看護倫理とは、2 倫理的問題事例へのアプローチ、3 看護ケアに関わる倫理（患者へのケア・気づき）・看護管理に関する倫理（組織：チームで動く・解決方法）であり、3に関して事例を用いたグループワークを行った。まず医療における倫理原則と看護職の倫理綱領の説明があり、専門職としての誇りと自覚をもって看護を実践していくこと、実践を行う上で重要なのは知識・技術をどのように使い、看護実践をどのように行うべきかという看護の倫理性であることが説明された。事例を通して、患者の立場や考えを想像することが重要であることが確認できた。また、倫理的問題事例への対応を検討する時には、倫理綱領に沿った視点、倫理原則に沿った視点に基づくことによって検討しやすくなることが説明された。</p> <p>グループワークでは、事例ごとに、グループワークで症例検討シート4分割法に基づき検討し、最終的に全体発表で共通理解が図られた。事例ごとに講師からの解説もあり、グループワークを通して異なる見方や意見を知り自分の考え方や判断・行動を振り返ることが大切であることを実感する機会となった。</p> <p>さらに、身体拘束に関して、身体拘束がもたらす弊害、身体拘束実施の条件は「切迫性」「非代償性」「一時性」のすべてを満たすこと、について説明された。</p> <p>最後に医療・看護はチームで行われており、看護職の倫理に関する意識や行動が、病院の医療や看護の質に影響することが強調された。</p>																										
まとめ	<p>研修生は40歳代52.9%、50歳代29.4%と年齢層が高く、今後の活用は「スタッフ教育」が多かった。回答の中には「倫理的問題は難しいが、考える機会となり今後の実践に活用したい」との意見もあった。アンケートの結果より、「できる・ややできる」を合わせて理解度91.2%、満足度については97.1%と評価が高く、研修全体を通して事例検討を行いながら自己の考えを振り返ることができ、理解しやすい研修であった。活用度についても「できる・ややできる」91.2%であり、本研修のねらいは達成できたと評価する。倫理的問題は関係する人々の立場や意見を客観的に理解し、対話を重ねていく必要があり、一方的な考えに偏らないためにも研修を通じて問題解決手法を学ぶ必要がある。今後も継続研修としていく。</p>																										
	<p><b>研修について</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>29.4%</td> <td>61.8%</td> <td>8.8%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>44.1%</td> <td>52.9%</td> <td>2.9%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>44.1%</td> <td>47.1%</td> <td>8.8%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	理解度	29.4%	61.8%	8.8%	0%	0%	満足度	44.1%	52.9%	2.9%	0%	0%	活用度	44.1%	47.1%	8.8%	0%	0%
項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																						
理解度	29.4%	61.8%	8.8%	0%	0%																						
満足度	44.1%	52.9%	2.9%	0%	0%																						
活用度	44.1%	47.1%	8.8%	0%	0%																						

研修名	運動器疾患と骨折・ロコモ予防の基礎知識	開催日	2021年9月12日																								
講師	富田 伸次郎 (愛野記念病院)	企画	教育委員会																								
ねらい	運動機能障害を正しく理解し、ロコモ予防のための基礎知識を学ぶ。																										
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:19人</td> <td>受講者:19人</td> <td>アンケート回答者数:18人</td> <td>回答率:94.7%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:1人、助産師:0人、看護師:12人、准看護師:1人、介護福祉士:4名</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:3人、30歳台:4人、40歳台:5人、50歳台:6人</td> </tr> </table>			応募者:19人	受講者:19人	アンケート回答者数:18人	回答率:94.7%	職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:12人、准看護師:1人、介護福祉士:4名			年齢	20歳台:3人、30歳台:4人、40歳台:5人、50歳台:6人														
応募者:19人	受講者:19人	アンケート回答者数:18人	回答率:94.7%																								
職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:12人、准看護師:1人、介護福祉士:4名																										
年齢	20歳台:3人、30歳台:4人、40歳台:5人、50歳台:6人																										
研修内容	<p>Zoomを使用したオンラインで実施した。教育委員もオンラインで参加・運営した。</p> <p>研修内容は、午前中は運動器の機能と解剖、骨粗鬆症と骨折の基礎知識に関する内容であった。運動器の機能と解剖、骨構造と加齢による破綻現象、軟骨・椎間板の構造、筋肉の役割、疼痛のメカニズム・慢性疼痛について説明があった。その中でも疼痛発生のメカニズムについて、痛みの伝達経路と下行性疼痛抑制系や侵害受容器に効果がある薬剤などの説明があった。また、骨粗鬆症の病態、診断、骨粗鬆症骨折における対処法、日常的な指導法、治療法（食事療法・リハビリテーション・薬物療法・手術療法）についてスライドを用いて詳しく講義された。</p> <p>午後からは院内転倒の実際と取り組み、変形性関節症、腰痛症に対する支援内容について講義された。院内転倒・転落に関して実際の判例を用いて説明され、院内転倒・転落はどの施設でも起こりうることでありどれだけ対策をとったかが重要であることが強調された。次に変形性関節症では、特に変形性膝関節症に関して膝の解剖から疼痛の診断・治療の説明がされ、ロコモティブシンドロームとの関わりが深い疾患であるため生活指導、運動療法が大切であることが確認された。腰痛症では、特に腰部脊柱管狭窄症の症状、診断、治療法、手術療法、運動療法、予後予測の講義があった。</p> <p>最後に、ロコモティブシンドロームの概念、7つのチェック項目、トレーニング方法について説明され、以前は高齢者を対象にトレーニングが推奨されていたが、現在は子供も対象に加え実施していくことが課題であることが説明された。</p>																										
まとめ	<p>受講者には他職種である介護福祉士の参加があった。例年、対面での研修では、トレーニングのパンフレットを用いて実際に受講者に実施してもらう演習を行っていたが、今回オンライン研修となったため演習を実施することができなかった。研修に対する理解度・満足度は90%以上が「できる」「ややできる」と回答しており、受講者の満足度の高い研修となった。しかし、本研修は継続3年目であるが参加人数が19名と少なく、今後研修内容等を検討する必要がある。</p> <p>オンライン受講については、初めて参加する受講者もいたが、特に大きなトラブルはなかった。</p>																										
	<p><b>研修について</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>55.6%</td> <td>38.9%</td> <td>5.6%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>72.2%</td> <td>22.2%</td> <td>5.6%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>33.3%</td> <td>50.0%</td> <td>16.7%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	理解度	55.6%	38.9%	5.6%	0%	0%	満足度	72.2%	22.2%	5.6%	0%	0%	活用度	33.3%	50.0%	16.7%	0%	0%
項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																						
理解度	55.6%	38.9%	5.6%	0%	0%																						
満足度	72.2%	22.2%	5.6%	0%	0%																						
活用度	33.3%	50.0%	16.7%	0%	0%																						

研修名	看護の現場ですぐに役立つ看護記録 ～伝わる記録のコツと書き方～			開催日	2021年9月22日														
講師	中島 美津子 (東京医療保健大学)			企画	教育委員会														
ねらい	看護記録の重要性を知り、看護実践が見える看護記録を学ぶ。																		
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:54人</td> <td>受講者:53人</td> <td>アンケート回答者数:50人</td> <td>回答率:94.3%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="4">保健師:0人、助産師:0人、看護師:47人、准看護師:3人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="4">20歳台:11人、30歳台:17人、40歳台:17人、50歳台:5人</td> </tr> </table>					応募者:54人	受講者:53人	アンケート回答者数:50人	回答率:94.3%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:47人、准看護師:3人				年齢	20歳台:11人、30歳台:17人、40歳台:17人、50歳台:5人			
応募者:54人	受講者:53人	アンケート回答者数:50人	回答率:94.3%																
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:47人、准看護師:3人																		
年齢	20歳台:11人、30歳台:17人、40歳台:17人、50歳台:5人																		
研修内容	<p>Zoomを使用したオンラインで実施した。教育委員もオンラインで参加・運営した。</p> <p>研修内容は、前半は看護記録の根拠、構成要素に関する内容、後半は客観性と重症度、医療・看護必要度との関連、監査方法、最後に「看護」を記録するための注意点に関する内容であった。具体的には看護記録は診療記録の1つに位置づけられ、法的証拠能力となるものであり、医療法の医療監査の根拠と照らし合わせながら看護記録の原則、診療上の電子カルテでのメリット、看護記録の真正性、倫理面への配慮として守秘義務の厳守や要配慮個人情報の重要性について説明された。看護記録の構成要素では、医療を取り巻く近現代的視点を踏まえた記録するためのポイントについて説明された。後半の具体的内容は、看護必要度ではモニタリングや処置、患者の状態、医学的状況も踏まえた記録の存在が大事であり、形式的記録監査項目・質的監査項目の一例について説明された。最後に「看護」記録するために、患者の看護問題を認識しながら行動し、その行動・判断を記載することが重要であると強調された。</p> <p>研修構成では当初、講義以外にグループワークの予定もあり、メンバー編成も準備していたが時間の都合上、グループでの意見交換までは出来ず、講師が指名制で受講者への発言を依頼し対応した。</p>																		
まとめ	<p>受講概要・アンケート結果より、20～50歳代と幅広い年代の方の参加であった。「理解度」「満足度」では、「できる・ややできる」70～80%以上であり、「自身の記録の見直しができた。記録で時間をとられていたため、アセスメント能力をさらに磨いていく必要があると思った」「看護記録について新たに学べたこともあった」との意見もあった。「活用度」についても、「できる・ややできる」80%を占め、看護実践や委員会活動が70.1%であり、本研修のねらいは達成できたと評価する。</p> <p>オンライン受講については、接続テストや研修でのトラブル発生は「無」と回答した受講者は90%以上であった。トラブル発生の内容については、「受講者側のパソコンの設定問題」「Wi-Fiが悪く声が聞き取れないことがあった」と回答。その他、「自宅で研修を受けられ時間の有効になった」と肯定的意見も多かった。</p> <p>看護を取り巻く環境は大きく変わり、他職種と協働する機会も増え、看護記録の重要性・有用性がいっそう増してきているなかで、専門職の責務として看護記録の意義を理解し、効率的で看護実践が見える記録について学ぶ機会は必要であり今後も継続研修としていく。</p>																		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>研修について</b></p> <p>□できる   ■ややできる   ▨ふつう   □ややできない   ■できない</p> <p>0%   10%   20%   30%   40%   50%   60%   70%   80%   90%   100%</p> <table border="1"> <tr> <td>理解度</td> <td>34.0%</td> <td>44.0%</td> <td>22.0%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>50.0%</td> <td>32.0%</td> <td>16.0%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>36.0%</td> <td>44.0%</td> <td>18.0%</td> </tr> </table> </div>					理解度	34.0%	44.0%	22.0%	満足度	50.0%	32.0%	16.0%	活用度	36.0%	44.0%	18.0%		
理解度	34.0%	44.0%	22.0%																
満足度	50.0%	32.0%	16.0%																
活用度	36.0%	44.0%	18.0%																

研修名	看護職に求められるリーダーシップ	開催日	2021年9月29日																								
講師	飯野 英親 (福岡看護大学)	企画	教育委員会																								
ねらい	リーダーシップを発揮するために必要な基本知識を学び、チームでの役割を理解する。																										
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:47人</td> <td>受講者:47人</td> <td>アンケート回答者数:41人</td> <td>回答率:87.2%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:41人、准看護師:0人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:17人、30歳台:14人、40歳台:9人、50歳台:1人</td> </tr> </table>			応募者:47人	受講者:47人	アンケート回答者数:41人	回答率:87.2%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:41人、准看護師:0人			年齢	20歳台:17人、30歳台:14人、40歳台:9人、50歳台:1人														
応募者:47人	受講者:47人	アンケート回答者数:41人	回答率:87.2%																								
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:41人、准看護師:0人																										
年齢	20歳台:17人、30歳台:14人、40歳台:9人、50歳台:1人																										
研修内容	<p><b>ZOOM</b> を使用したオンラインで実施した。</p> <p>午前中は、パワーポイントを使用して、「リーダーシップとマネジメント」、「リーダーに求められる能力」、「今どきのリーダーのタイプ」、「看護管理に役立つリーダーシップ」、「変化することを恐れない組織風土をつくる」の内容の講義だった。リーダーに求められる能力では、14項目について説明があった。また、今どきは、「支配型リーダーシップ」ではなく「サーバントリーダーシップ」(リーダーは上に立って権力を振るう者ではなくて、周囲の同僚を導き、メンバーに奉仕する存在であるべきだとする考え方) が求められることを、スターバックスの経営理念を用いて説明された。</p> <p>午後は、「学習スタイルの確認」「スタッフや部下に働きかける自己の能力の自己点検」「NASAのミッションに挑戦」の内容で、個人ワーク・グループワークを取り入れた研修だった。個人ワークでは、自分のタイプについて知ることができた。グループワークでは、個人より集団の方が問題解決へと近づくこともわかった。</p> <p>今回の研修の受講者は47名(午後から1名欠席)だった。</p> <p>回収されたアンケートからは、20～30歳代が約75%を占めた。すでにリーダー業務を担っている人、これからリーダー業務を担っていく人の参加があった。</p> <p>研修については、理解度(できる・ややできる)が97.6%、満足度(できる・ややできる)が97.5%、活用度(できる・ややできる)が92.6%と高い評価だった。</p> <p>午前中2度、講師の回線が切断したが、すぐに接続したため大きなトラブルとはならなかった。オンライン研修についての受講者の意見として、「慣れないが、オンライン研修は良いものだと感じた」、「オンラインの方が受けやすい気がする」、「慣れればオンラインでも大丈夫」と肯定的なものが多かった。しかし、ブレイクアウトルームを使用したグループワークでは、グループによってはディスカッションまでに時間を要したり、音声をONにできていないことがあったりした。ディスカッションのオリエンテーション時に、ZOOMの機能(音声をONにすること)についての説明を追加することを検討する。</p> <p>チームや組織内で役割を果たし、目的や目標を達成するためにはリーダーシップは重要である。本研修は満足度も高く、現場に生かすことができる内容であり、今後も継続研修とする。</p>																										
まとめ	<p>今回の研修の受講者は47名(午後から1名欠席)だった。</p> <p>回収されたアンケートからは、20～30歳代が約75%を占めた。すでにリーダー業務を担っている人、これからリーダー業務を担っていく人の参加があった。</p> <p>研修については、理解度(できる・ややできる)が97.6%、満足度(できる・ややできる)が97.5%、活用度(できる・ややできる)が92.6%と高い評価だった。</p> <p>午前中2度、講師の回線が切断したが、すぐに接続したため大きなトラブルとはならなかった。オンライン研修についての受講者の意見として、「慣れないが、オンライン研修は良いものだと感じた」、「オンラインの方が受けやすい気がする」、「慣れればオンラインでも大丈夫」と肯定的なものが多かった。しかし、ブレイクアウトルームを使用したグループワークでは、グループによってはディスカッションまでに時間を要したり、音声をONにできていないことがあったりした。ディスカッションのオリエンテーション時に、ZOOMの機能(音声をONにすること)についての説明を追加することを検討する。</p> <p>チームや組織内で役割を果たし、目的や目標を達成するためにはリーダーシップは重要である。本研修は満足度も高く、現場に生かすことができる内容であり、今後も継続研修とする。</p>																										
	<p><b>研修について</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>65.9%</td> <td>31.7%</td> <td>2.4%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>70.7%</td> <td>26.8%</td> <td>2.4%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>58.5%</td> <td>34.1%</td> <td>7.3%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	理解度	65.9%	31.7%	2.4%	0%	0%	満足度	70.7%	26.8%	2.4%	0%	0%	活用度	58.5%	34.1%	7.3%	0%	0%
項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																						
理解度	65.9%	31.7%	2.4%	0%	0%																						
満足度	70.7%	26.8%	2.4%	0%	0%																						
活用度	58.5%	34.1%	7.3%	0%	0%																						

研修名	脳血管障害の基礎知識	開催日	2021年10月1日																								
講師	田栗 寛子 (十善会病院)	企画	教育委員会																								
ねらい	脳血管障害の基本知識を学び、看護に必要なアセスメント能力の向上につなげ看護実践に生かす。																										
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:36人</td> <td>受講者:34人</td> <td>アンケート回答者数:33人</td> <td>回答率:97.1%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師: 人、助産師: 2人、看護師: 29人、准看護師: 2人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台: 10人、30歳台: 11人、40歳台: 9人、50歳台: 2人、60歳台: 1人</td> </tr> </table>			応募者:36人	受講者:34人	アンケート回答者数:33人	回答率:97.1%	職種	保健師: 人、助産師: 2人、看護師: 29人、准看護師: 2人			年齢	20歳台: 10人、30歳台: 11人、40歳台: 9人、50歳台: 2人、60歳台: 1人														
応募者:36人	受講者:34人	アンケート回答者数:33人	回答率:97.1%																								
職種	保健師: 人、助産師: 2人、看護師: 29人、准看護師: 2人																										
年齢	20歳台: 10人、30歳台: 11人、40歳台: 9人、50歳台: 2人、60歳台: 1人																										
研修内容	<p>ZOOMを使用したオンラインで開催された。教育委員は研修センターにて参加した。</p> <p>研修内容は、始めに日本における脳卒中の動向について、脳卒中における死亡の内訳が脳出血から脳梗塞へと移行していること、脳神経疾患の概況を説明された。その後、脳の解剖や脳神経の働きについて詳細に説明された。意識障害のメカニズムとその対応、緊急性のある意識障害、患者家族に対する倫理的配慮、脳卒中の分類(脳梗塞・脳出血・くも膜下出血)の病態生理・治療方法の説明があった。脳卒中の危険因子として基礎疾患や生活習慣があり、患者・家族指導への活用できる生活習慣改善の指標として「脳卒中予防10か条」が説明された。研修後半は急性期からのリハビリテーションについて、廃用症候群を予防するためにも早期リハビリが大切であるが、全身状態や神経症状の程度を確認しながら実施していく必要性が強調された。また、摂食・嚥下障害、言語障害(失語症・構音障害)、高次脳機能障害の原因や症状、それぞれの障害に対する看護師としての対応の説明があった。</p> <p>最後に家族指導として、高次脳機能障害についての説明と適切な対処法の指導を早期に行うことが推奨されていること、対応方法として具体的・実践的なアドバイスが有効であること、利用できる社会資源の説明や資料の提示を行うことが大切であることが説明された。</p>																										
まとめ	<p>受講生は20歳代から60歳代まで幅広い年代層であった。研修に対する理解度は「できる・ややできる」を合わせて81.8%を占めた。満足度に対しても「できる・ややできる」で合わせて84.8%と高得点であった。活用度については51.5%と半数以上が「できる」と答えており、活用の際は看護実践と答えている者が多かった。受講生から「知識の整理ができた。知識が深まった」との意見があり、脳血管障害の基礎知識から学ぶことができ、自己の知識を深めることができる研修内容であったと考える。病態から看護への適用まで幅広い研修内容であったため、実践の場でのアセスメントに活かせる研修であったと考える。本研修のねらいは達成できており、継続研修としたい。</p>																										
	<p><b>研修について</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>33.3%</td> <td>48.5%</td> <td>15.2%</td> <td>2.0%</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>42.4%</td> <td>42.4%</td> <td>15.2%</td> <td>0.0%</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>51.5%</td> <td>33.3%</td> <td>15.2%</td> <td>0.0%</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table>			項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	理解度	33.3%	48.5%	15.2%	2.0%	0.0%	満足度	42.4%	42.4%	15.2%	0.0%	0.0%	活用度	51.5%	33.3%	15.2%	0.0%	0.0%
項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																						
理解度	33.3%	48.5%	15.2%	2.0%	0.0%																						
満足度	42.4%	42.4%	15.2%	0.0%	0.0%																						
活用度	51.5%	33.3%	15.2%	0.0%	0.0%																						

研修名	災害支援ナース育成研修 【実務編】		開催日	2021年10月2日																								
講師	馬郡正昌(長崎県福祉保健部医療政策課地域医療班) 山川 穂波(社会医療法人春回会 井上病院) 荻野 智子(公益社団法人長崎県看護協会)		企画	災害委員会 研修センター																								
目的	1. 看護専門職の災害時支援者として、被災地や被災者に対して有効に機能する。 2. 災害支援ナースとして他者と協働でき、自律した活動ができる。																											
目標	1. 災害支援ナースの活動の実際を想定することができる。 2. 災害支援ナースとして活動する際の基本的な心構えがわかる。 3. 災害支援ナースの活動の展開と展開にあたっての留意事項がわかる。																											
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:55人</td> <td>受講者:52人</td> <td>アンケート回答者数:52人</td> <td>回答率:100%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:1人、看護師:50人、准看護師:1人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:2人、30歳台:10人、40歳台:29人、50歳台:11人</td> </tr> </table>				応募者:55人	受講者:52人	アンケート回答者数:52人	回答率:100%	職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:50人、准看護師:1人			年齢	20歳台:2人、30歳台:10人、40歳台:29人、50歳台:11人														
応募者:55人	受講者:52人	アンケート回答者数:52人	回答率:100%																									
職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:50人、准看護師:1人																											
年齢	20歳台:2人、30歳台:10人、40歳台:29人、50歳台:11人																											
研修内容	<p>日本看護協会の災害支援ナース育成研修プログラムに則り、災害支援ナースの実践力向上を目的とした研修6時間、本県での実務編として zoom を用いたオンラインで開催した。内容は、午前、本県の災害医療体制を県担当者による講義、災害支援ナースの活動の実際では、自己完結型の看護支援技術と状況設定「災害発生時」「派遣決定」演習を個人、グループディスカッション。午後は、引き続き、状況「活動場所へ到着」「活動中に新たな支援を依頼された」「支援ニーズが減少し活動を終了」設定でワークを実施した。各グループには災害委員1名の支援者体制とした。演習後はまとめとして、「記録と報告」「活動の評価」の講義を受けた。最後に、本協会における災害支援ナースの登録役割とこれまでの活動経過の報告があった。</p> <p>まとめ 受講者は、30～50歳台が最も多く96%、受講者のうち災害支援ナース登録者は36人であった。災害支援ナース登録者のフォローアップとしても本研修は有効と考える。研修内容についての理解度はできる・ややできる92.3%、満足度は88.5%、今後の実践への活用は90.4%と高い評価であった。実務編としての目標は達成できたようである。意見感想は、「昨年、災害支援ナースに登録したが知識の再確認になりました」「実際の内容など聞くことができ、イメージしやすかった」「避難所における新型コロナウイルス感染症対策について、新しい情報を得ることができ災害支援ナースの役割がどういうものかも理解できた」「看護の技術や知識について自分に何が必要かも考えることができた」であった。災害支援経験者の活動や、本協会の災害支援ナース活動の実際を想定することができたことは、研修目的達成に繋がったと思われる。今後の本協会災害支援ナース登録の推進と登録者の継続した研修内容として計画していくことが必要である。</p>																											
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>研修について</b> □できる ■ややできる □ふつう □ややできない ■できない</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>51.9%</td> <td>40.4%</td> <td>7.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>38.5%</td> <td>50.0%</td> <td>11.5%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>46.2%</td> <td>44.2%</td> <td>9.6%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div>				項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	理解度	51.9%	40.4%	7.7%			満足度	38.5%	50.0%	11.5%			活用度	46.2%	44.2%	9.6%		
項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																							
理解度	51.9%	40.4%	7.7%																									
満足度	38.5%	50.0%	11.5%																									
活用度	46.2%	44.2%	9.6%																									

研修名	基礎から理解！ 認知症高齢者の正しいアセスメントとケア		開催日	2021年10月3日																								
講師	飯山 有紀 (熊本保健科学大学)		企画	教育委員会																								
ねらい	認知症高齢者を正しく理解するためのアセスメントの視点を学び看護実践に繋げる。																											
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:35人</td> <td>受講者:33人</td> <td>アンケート回答者数:30人</td> <td>回答率:90.9%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:29人、准看護師:1人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:10人、30歳台:5人、40歳台:6人、50歳台:8人、60歳台:1人</td> </tr> </table>				応募者:35人	受講者:33人	アンケート回答者数:30人	回答率:90.9%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:29人、准看護師:1人			年齢	20歳台:10人、30歳台:5人、40歳台:6人、50歳台:8人、60歳台:1人														
応募者:35人	受講者:33人	アンケート回答者数:30人	回答率:90.9%																									
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:29人、准看護師:1人																											
年齢	20歳台:10人、30歳台:5人、40歳台:6人、50歳台:8人、60歳台:1人																											
研修内容	<p>ZOOMを使用したオンラインで開催された。</p> <p>研修内容は、高齢者および老年看護の定義、老年看護実践の目標として、「高齢者の尊厳を支えること、その人らしい生活の可能性を生み出すこと、高齢者の自律を支えること、老衰や死の中での統合を支援すること」が挙げられ、その後認知症に関する説明があった。認知症の病態、各認知症（アルツハイマー認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側型認知症）の症状や特徴、認知機能障害とBPSD(中核症状と行動・心理症状)とその薬物療法、対処方法が説明された。過活動BPSDには精神症状と行動異常があり、精神症状に属するものは薬物の効果が期待できるが行動異常は非薬物療法が中心であること、BPSDの悪化の際は患者へのケアの見直しが必要であることが述べられた。日本版MoCAを用いた演習が行われ、検査の点数に着目するのではなく、患者のどの部分に力があり、どの部分に支援が必要なのかを見極めることが強調された。</p> <p>認知症高齢者の看護では、病態、重症度の特徴を踏まえた個人の背景・環境・薬剤などの統合的なアセスメントが必要であること、必ず患者本人への説明を行い、意思や意を確認し、患者不在の判断をしないこと、生活全体のバランス、リズムを整えるためのチームとしてケアをする必要があることが説明された。また、アミロイドβ蛋白の蓄積はADが発病・増悪する可能性が示唆されていること、認知症と睡眠時間の関係、不眠の放置は睡眠薬投与よりも転倒のリスクが上がること、糖尿病によるAD発症のリスクは約2倍になることが説明された。</p>																											
まとめ	<p>研修に対する満足度は66.7%と高値であり、今後の看護実践に活かすことができるとの意見が多かった。オンライン受講に関しては、大きなトラブルはなく、受講者からは自宅で受講することで感染の心配もなく集中して受講できたとの感想が聞かれた。</p>																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>研修について</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>46.7%</td> <td>46.7%</td> <td>6.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>66.7%</td> <td>30.0%</td> <td>3.3%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>60.0%</td> <td>36.7%</td> <td>3.3%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				研修について	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	理解度	46.7%	46.7%	6.7%			満足度	66.7%	30.0%	3.3%			活用度	60.0%	36.7%	3.3%		
研修について	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																							
理解度	46.7%	46.7%	6.7%																									
満足度	66.7%	30.0%	3.3%																									
活用度	60.0%	36.7%	3.3%																									

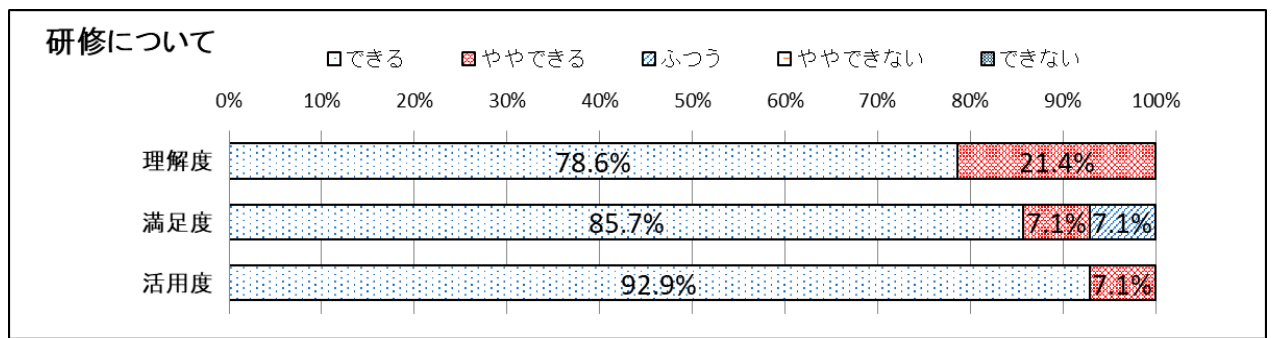
研修名	周術期看護 ～外来・手術室・病棟看護師における連携とチーム医療	開催日	2021年10月8日
講師	前川 宏司（長崎労災病院 手術看護認定看護師）	企画	教育委員会

ねらい 術前から術後までのリスク評価と手術侵襲における必要な援助を理解し、周術期の看護実践へ生かす。

受講者概要	応募者:17人	受講者:15人	アンケート回答者数:14人	回答率:93.3%
	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:15人、准看護師:0人		
	年齢	20歳台:5人、30歳台:5人、40歳台:5人、50歳台:0人		

研修内容 ZOOMを使用したオンラインで開催された。  
 研修内容は、午前中は手術室看護師の意義と役割、術前看護として「術前訪問」「術前のリスクアセスメント」について説明された。術前訪問のポイントは①意味のある情報収集を要領よく行う、②アセスメントとして問題を予測して医師等へ確認・相談を行う、③個別的な術前看護計画の立案であることが説明された。説明の後、効果的な術前訪問を行うためのアイデアについて個人ワーク・発表を行い、知識の共有が図られた。リスク回避するために必要な情報としては患者プロフィール・各種検査・アレルギー、既往歴・身体的特徴・精神的特徴についての情報収集が重要であることが強調された。術後に基礎疾患の悪化や術後合併症のリスクが高まる基礎疾患を有する患者の周術期管理の重要性、既往歴では患者の言葉のみならず身体所見や検査データ等から潜在的な情報を推察する必要性が説明された。そして、講師が準備した症例（3事例）を基に、術前情報から問題点を抽出するアセスメントトレーニングを実施した。  
 午後は術中看護・術後看護として「術中に起こる問題」「全身麻酔について」「術後管理に向けた観察と申し送り」について説明があった。また、麻酔や手術による合併症について観察や対応のポイントが説明された。術後申し送りでは手術室看護師からの申し送りの質によって術後合併症の発見や対応が左右されることから、術後に起こりそうなことを予測して病棟看護師に伝えることの重要が強調された。  
 周術期の安全管理には、術前の情報収集に基づくリスク評価と術前管理が重要であり、術前管理は可能な限り早い段階から開始することが望ましいこと、周術期に関わる看護師は各々が持つ情報を共有しながら刻々と変化する患者の状態を先読みしながら対応していくことが大切であることが説明された。

まとめ 受講生の年齢は、20歳台が35.7%、30歳台が28.6%、40歳台が35.7%であった。研修の理解度、満足度、活用度については「できる・ややできる」が約90%であった。本研修の学びについては「知識の整理ができた」35%「アイデアが得られた」15%であり、今後の活用について「看護実践」45.2%を推移しており、研修のねらいは達成できたと評価する。  
 オンラインでの研修であったが、特に機器のトラブルもなく終了した。





研修名	現場に役立つ！褥瘡ケア ～最新知識に基づいたケアの実際～	開催日	2021年10月15日																								
講師	大畑直子 (独立行政法人地域医療機能推進機構 諫早総合病院)	企画	教育委員会																								
ねらい	褥瘡予防の重要性や褥瘡ケアの具体的な方法を理解し実践に繋ぐ。																										
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:43人</td> <td>受講者:41人</td> <td>アンケート回答者数:41人</td> <td>回答率:100%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:40人、准看護師:1人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:16人、30歳台:10人、40歳台:10人、50歳以上:5人</td> </tr> </table>			応募者:43人	受講者:41人	アンケート回答者数:41人	回答率:100%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:40人、准看護師:1人			年齢	20歳台:16人、30歳台:10人、40歳台:10人、50歳以上:5人														
応募者:43人	受講者:41人	アンケート回答者数:41人	回答率:100%																								
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:40人、准看護師:1人																										
年齢	20歳台:16人、30歳台:10人、40歳台:10人、50歳以上:5人																										
研修内容	<p>ZOOMを使用したオンラインで開催された。</p> <p>研修内容は、前半は褥瘡の発生要因と褥瘡発生予測のためのリスクアセスメント、スキンケアであった。褥瘡発生予測のためのリスクアセスメント・スケール、褥瘡の予防ケア（体位・体圧分散用具・ずれの排除）の説明があり、褥瘡発生以前の予防が重要であることが強調された。スキンケアでは、皮膚の構造・機能を踏まえた上で、褥瘡が悪化しやすい皮膚状態と要因、皮膚障害の予防方法（洗浄方法、洗浄剤・保護剤）を説明され、スキンケアの必要性について強調された。スキンケア剤が事前に配布され、実際に自分の手に塗布し、使用感を確認する時間があった。</p> <p>後半は実際の治療ケアに関する内容であり、褥瘡の分類、創周囲皮膚のスキンケア、創の洗浄方法、壊死組織の除去、創の状態に応じた薬剤・被覆材の選択、陰圧閉鎖療法、医療関連機器圧迫損傷（MDRPU）の予防とケアについて説明された。褥瘡の具体的な処置方法に関しては、実際の褥瘡の写真を用いて治療方法とともにその後の経過を説明された。</p> <p>最後に高齢者などの脆弱な皮膚で起こりやすいスキントケアについて、その発生要因と予防方法、発生時のケア方法を説明された。</p>																										
まとめ	<p>受講生は20歳代から60歳代まで幅広い年代層であった。研修に対する理解度・満足度は全ての受講生が「できる・ややできる」と回答した。活用度については92%が「できる・ややできる」回答した。受講生から「ポジショニングや被覆剤について把握することができた」「褥瘡や皮膚障害の患者さんのケアなどで悩むこともあり、今日の研修を通して新たな学びも得ることができた。褥瘡は予防が大事ということを意識していきたいと思う」との意見があり、本研修が実践に即活用できる研修内容であったと考える。褥瘡発生の要因等の基礎的知識を確認したあと、褥瘡の写真や事例を用いて具体的処置方法を教授する研修であったため、受講生の満足度の高い研修となったと考える。本研修のねらいは達成できており、継続研修としたい。</p> <p>オンライン研修への初めての参加で不安が強い受講生や研修中機器トラブルが発生した受講生がいたが、電話対応等で無事に研修を受講できた。研修の冒頭で講義用スライドの画面共有ができないというトラブルが発生したが、パソコン機器変更で対処しその後は特にトラブルは発生しなかった。</p>																										
	<p><b>研修について</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>75.6%</td> <td>24.4%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>70.7%</td> <td>29.3%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>78.0%</td> <td>14.6%</td> <td>7.3%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	理解度	75.6%	24.4%	0%	0%	0%	満足度	70.7%	29.3%	0%	0%	0%	活用度	78.0%	14.6%	7.3%	0%	0%
項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																						
理解度	75.6%	24.4%	0%	0%	0%																						
満足度	70.7%	29.3%	0%	0%	0%																						
活用度	78.0%	14.6%	7.3%	0%	0%																						

研修名	がん化学療法 基本の理解と予測・対応	開催日	2021年10月22日																								
講師	長池 恵美 (長崎大学病院)	企画	教育委員会																								
ねらい	がん化学療法の基礎知識と看護の実際を学ぶ。																										
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:26人</td> <td>受講者:26人</td> <td>アンケート回答者数:24人</td> <td>回答率:92.3%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:24人、准看護師:0人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:4人、30歳台:5人、40歳台:10人、50歳台:5人</td> </tr> </table>			応募者:26人	受講者:26人	アンケート回答者数:24人	回答率:92.3%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:24人、准看護師:0人			年齢	20歳台:4人、30歳台:5人、40歳台:10人、50歳台:5人														
応募者:26人	受講者:26人	アンケート回答者数:24人	回答率:92.3%																								
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:24人、准看護師:0人																										
年齢	20歳台:4人、30歳台:5人、40歳台:10人、50歳台:5人																										
研修内容	<p>Zoomを使用したオンラインで実施した。教育委員は研修センターで参加した。</p> <p>講義内容は、抗がん剤の基礎、副作用、抗がん剤治療前のケア、副作用発生時のケアであった。確実に・安全に・安楽ながん化学療法看護を実践するために、抗がん剤の基礎知識から開始された。抗がん剤は細胞毒性薬剤でありミキシングの時の防護具着用による暴露防止、抗がん剤投与時の投与血管のアセスメント、血管外露出時の症状や処置方法が説明された。また、抗がん剤投与後48時間以内は排泄物の取り扱いに注意が必要であることの説明もあった。抗がん剤の副作用は脱毛や悪心・嘔吐、便秘・下痢、皮膚障害、味覚障害、倦怠感など様々であり、抗がん剤投与から副作用発現時期を図式で解説された。抗がん剤の種類によっても発現する副作用は異なり、それぞれの副作用に対する看護ケアのポイントが説明された。特にボディイメージの変化が著しい脱毛は治療前に治療内容や副作用の説明を行い、説明内容を正確に理解できているかの確認が必要である。また、あらかじめ容姿を整える方法などの情報提供とともに、精神的なケアが必要であることを説明された。悪心・嘔吐は制吐剤の投与方法、看護ケアとしての生活環境の調整や安楽への援助、食事の工夫が説明された。</p> <p>最後に、がん化学療法看護で大切なことは、患者が化学療法を継続できるように看護師の化学療法に対する正しい知識と理解が必要であることを強調された。</p>																										
まとめ	<p>受講者は20代～50代と幅広い年代であった。研修内容については、理解度87.5%、満足度95.8%の受講者が「できる」「ややできる」と回答した。活用度についても91.7%が「できる」「ややできる」と回答した。受講者からは「抗がん剤投与前から投与後まで、看護としてできることが詳しく理解できた」との意見があった。本研修内容は、がん化学療法についての基礎的知識を習得でき、看護実践に繋がるものであったと評価する。本研修のねらいは達成できており、継続研修としていきたい。</p>																										
	<table border="1"> <caption>研修について</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>45.8%</td> <td>41.7%</td> <td></td> <td>12.5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>62.5%</td> <td>33.3%</td> <td></td> <td>4.2%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>66.7%</td> <td>25.0%</td> <td></td> <td>8.3%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	理解度	45.8%	41.7%		12.5%		満足度	62.5%	33.3%		4.2%		活用度	66.7%	25.0%		8.3%	
	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																						
理解度	45.8%	41.7%		12.5%																							
満足度	62.5%	33.3%		4.2%																							
活用度	66.7%	25.0%		8.3%																							

研修名	高齢者に安全な薬物療法 ～他職種連携で進める服薬管理～			開催日	2021年10月31日														
講師	安藝 敬生、赤城 友章、宮永 圭 (長崎大学病院 薬剤部)			企画	教育委員会														
ねらい	加齢に伴う身体機能の変化による薬物動態を理解し、高齢者の安全な薬物療法に繋げ、看護実践に生かす。																		
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:19人</td> <td>受講者:19人</td> <td>アンケート回答者数:19人</td> <td>回答率:100%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="4">保健師:0人、助産師:0人、看護師:18人、准看護師:1人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="4">20歳台:2人、30歳台:2人、40歳台:9人、50歳台:6人</td> </tr> </table>					応募者:19人	受講者:19人	アンケート回答者数:19人	回答率:100%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:18人、准看護師:1人				年齢	20歳台:2人、30歳台:2人、40歳台:9人、50歳台:6人			
応募者:19人	受講者:19人	アンケート回答者数:19人	回答率:100%																
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:18人、准看護師:1人																		
年齢	20歳台:2人、30歳台:2人、40歳台:9人、50歳台:6人																		
研修内容	<p>ZOOMを使用したオンラインで実施した。3名の薬剤師が講師となりリレー方式ですすめられた。午後の後半はグループワークが実施された。</p> <p>研修内容は、午前が高齢者の薬物療法の現状と課題に関する内容、安全な薬物療法を支える薬剤師の活動に関する内容、午後からは服薬アドヒアランスに関する内容であった。具体的には、高齢者の薬物動態を理解することは、薬効や副作用を予測することが可能で重要であること、ポリファーマシーの解決に向けて、患者背景、環境、目標をしっかりと把握し、他職種間で連携し適切な医療提供が必要であると説明された。薬剤師の業務では、服薬指導だけではなく、薬物治療を最適化し患者のQOLを改善させることを目標に、ファーマシューティカルケアとして患者個々の薬剤使用に関する問題を提案、解決する役割であると説明された。服薬アドヒアランスでは、服薬拒否する小児や、病識を得られない事が多い精神疾患患者、認知症、効果が実感できない分忘れがちな点眼といった特殊なアドヒアランスについても、まずは治療内容、患者側・医療者側、周囲（環境）にかかわる要因を把握し解決することが大切で、個々の状況をふまえて医療者が患者と共に考え、相談の上で治療を決定していくことが必要であると説明された。グループワークでは、1事例を元に服薬管理についての問題点の把握や具体的計画について検討した。1グループ6～7名で、各グループには講師がファシリテーターとして参加した。研修内容を振り返りながら各グループ、活発な意見交換ができ全体発表することで、共通理解を図ることができた。</p>																		
まとめ	<p>受講概要・アンケート結果より、20～50歳代まで幅広い年代層の参加であった。研修に対する「理解度」「満足度」では、「できる・ややできる」を合わせて80～90%以上を占め、「幅広く高齢者の薬剤に関して実践的な講義を受けられた」「病室に訪問している薬剤師が何をしているか理解できた」「アドヒアランス向上に向けて色々な視点があることを学べた」と意見があった。「活用度」についても90%以上で、看護実践で活用すると答えた者が多かった。研修内容は興味深く受講者のニーズと実践に沿った内容であり、ねらいは達成できたと評価する。オンライン受講での機器的トラブルはなかった。感想として、グループワークでの事例に関する詳細情報について配布資料もなく、画面共有できるものも無いグループもあった。事例の情報量も多かったため、事前に事例に関する配布資料があった方がよりスムーズにワークできたのではないかと感じた。</p>																		
	<div style="text-align: center;"> <h3>研修について</h3> <p>□できる    ■ややできる    ▨ふつう    □ややできない    ■できない</p> <p>0%   10%   20%   30%   40%   50%   60%   70%   80%   90%   100%</p> <table border="1"> <tr> <td>理解度</td> <td>73.7%</td> <td>21.1%</td> <td>5.3%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>73.7%</td> <td>15.8%</td> <td>10.5%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>73.7%</td> <td>21.1%</td> <td>5.3%</td> </tr> </table> </div>					理解度	73.7%	21.1%	5.3%	満足度	73.7%	15.8%	10.5%	活用度	73.7%	21.1%	5.3%		
理解度	73.7%	21.1%	5.3%																
満足度	73.7%	15.8%	10.5%																
活用度	73.7%	21.1%	5.3%																

研修名	理解を深めよう！ 消化器領域の検査データの見かた・活かし方		開催日	2021年11月6日																								
講師	奥平 定之 (奥平外科医院)		企画	教育委員会																								
ねらい	消化器疾患に関連する検査データの基礎知識を学び、看護実践に生かす。																											
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:19人</td> <td>受講者:19人</td> <td>アンケート回答者数:19人</td> <td>回答率:100.0%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:45人、准看護師:4人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:12人、30歳台:16人、40歳台:16人、50歳台:5人</td> </tr> </table>				応募者:19人	受講者:19人	アンケート回答者数:19人	回答率:100.0%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:45人、准看護師:4人			年齢	20歳台:12人、30歳台:16人、40歳台:16人、50歳台:5人														
応募者:19人	受講者:19人	アンケート回答者数:19人	回答率:100.0%																									
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:45人、准看護師:4人																											
年齢	20歳台:12人、30歳台:16人、40歳台:16人、50歳台:5人																											
研修内容	<p>ZOOMを使用したオンラインで実施した。</p> <p>研修内容は、消化器領域における解剖生理として腹部の区分、基本的検査法として血液検査や画像検査について、臓器別に主な消化器疾患の概要について説明された。具体的内容としては、口・咽頭・食道では、胃食道逆流症、食道アカラシア、食道癌について、胃・十二指腸では消化性潰瘍、胃癌について、小腸・大腸・直腸・肛門では、潰瘍性大腸炎、クローン病、感染性腸炎、偽膜性腸炎、抗生物質起因性出血性腸炎、虚血性腸炎、大腸癌について、肝臓・胆嚢・膵臓では、肝炎、薬物性肝障害、自己免疫性肝疾患、原発性胆汁性胆管炎、アルコール性肝障害、肝腫瘍、膵臓癌、膵のう胞性腫瘍について、それぞれ疾患別に原因、症状、治療の説明があった。最後に急性腹症として、急性虫垂炎、急性胆嚢炎、腸閉塞の特徴や腹痛の分類、急性腹症の初期診療アルゴリズムについて説明された。スライドの中には、多くの内視鏡やX-P、エコー画像も多く、より視覚的にも疾患の理解に繋げることができた。</p>																											
まとめ	<p>受講概要・アンケート結果より、20～50歳代まで幅広い年代層の参加であった。研修に対する「理解度」「満足度」では、「できる・ややできる」を合わせて80%以上を占め、「分かりやすい内容で理解しやすかった」「画像診断まで細かく説明して頂き良かった」と意見があった。「活用度」についても「できる・ややできる」が80%以上を占め、看護実践で活用すると答えた者が多かった。研修内容は、実際の画像所見も多く、検査や異常所見箇所が明確となり視覚教材も満足がいくもので、全体を通して理解しやすく研修のねらいは達成できる内容であったと評価する。一方で、自由意見の中には、「テーマと内容に相違がある」という少数意見もあった。検査や疾患についての基礎知識のみならず、特に検査値を正しく読み解く力や身体状況とのアセスメントや関連づけといった部分で今回の研修では、不十分さを感じたのかと思われる。</p> <p>オンライン受講での機器的トラブルについては、「初めてで分かりにくかった」「出欠の確認が出来ていなかった」「名前番号の入力を間違えた」「接続できず電話で問い合わせた」など意見があった。今後のオンラインでの研修受講について希望する者は75.5%であった。今後も研修のオンライン化が進む中、受講者数が多いと出欠確認には時間を要す事は考えられる。ネットワーク環境が不安定で接続の問題や操作に不慣れな方もいる中で、オンライン研修での事前準備としての受講者への案内や出欠確認方法など更なる改善が今後の課題かと思われた。</p>																											
	<p><b>研修について</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>73.7%</td> <td>21.1%</td> <td>5.3%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>73.7%</td> <td>15.8%</td> <td>10.5%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>73.7%</td> <td>21.1%</td> <td>5.3%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>				項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	理解度	73.7%	21.1%	5.3%	0%	0%	満足度	73.7%	15.8%	10.5%	0%	0%	活用度	73.7%	21.1%	5.3%	0%	0%
項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																							
理解度	73.7%	21.1%	5.3%	0%	0%																							
満足度	73.7%	15.8%	10.5%	0%	0%																							
活用度	73.7%	21.1%	5.3%	0%	0%																							

研修名	がん患者のセルフケア支援 ～治療期の生活を支えるために～	開催日	2021年11月10日																								
講師	永石 恵美 (長崎大学病院)	企画	教育委員会																								
ねらい	治療期にあるがん患者の全人的苦痛を理解し、セルフケア支援における看護について学ぶ。																										
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:23人</td> <td>受講者:20人</td> <td>アンケート回答者数:20人</td> <td>回答率:100%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:20人、准看護師:0人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:3人、30歳台:7人、40歳台:6人、50歳台:4人</td> </tr> </table>			応募者:23人	受講者:20人	アンケート回答者数:20人	回答率:100%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:20人、准看護師:0人			年齢	20歳台:3人、30歳台:7人、40歳台:6人、50歳台:4人														
応募者:23人	受講者:20人	アンケート回答者数:20人	回答率:100%																								
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:20人、准看護師:0人																										
年齢	20歳台:3人、30歳台:7人、40歳台:6人、50歳台:4人																										
研修内容	<p>ZOOMを使用したオンラインで開催された。</p> <p>研修内容は、午前中はがんサバイバーの現状・課題、治療期の全人的苦痛、がん治療であった。午後は、治療期における症状マネジメントとセルフケア、セルフケア支援における看護の役割に関する内容であった。</p> <p>がんサバイバーの現状では、がんサバイバーシップ、がん対策基本計画の説明があった。課題では、患者が情報を得ること、治療選択、治療の副作用・後遺症、社会生活との両立、ピアサポートの少なさ、AYA世代特有の問題、高齢者特有の問題について具体的な例を用いて詳細に説明された。がん治療に関しては、主に薬物療法(細胞障害性抗がん薬・分子標的治療薬・ホルモン薬)の効用と副作用が説明された。治療期の全人的苦痛に関しては、身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、霊的な苦痛それぞれの特徴を説明され、胃癌患者の事例を用いて実際のアセスメントを解説された。</p> <p>治療期における症状マネジメントとセルフケアでは、外来化学療法中の症状(8項目)について観察項目およびケア内容の説明があり、大腸がん患者の事例を用いて必要なセルフケアを考える個人ワーク・発表があった。</p> <p>セルフケア支援における看護の役割では、治療副作用に対するセルフケア支援・意思決定支援・社会生活との両立支援の3側面から具体的な支援内容の説明があり、右乳癌患者の事例を用いて、「脱毛のセルフケアに必要な看護」「症状マネジメントのセルフケア以外に必要な看護」の課題に関して個人ワークをし、その内容を全体発表することで知識の共有を図られた。</p>																										
まとめ	<p>受講概要・アンケート結果より、20～50歳代まで幅広い年代層の参加であった。研修に対する「理解度」「満足度」では、「できる・ややできる」を合わせて90%以上を占め、「セルフケア支援について、どのような観点で計画して実践すればよいか具体的に知ることができた」「普段がん患者の自己決定支援に関わる事が多いためとても参考になった。様々な資料の紹介もあり今後の看護に活かしていきたい」と意見があった。研修内容は受講者のニーズと実践に沿った内容であり、ねらいは達成できたと評価する。機器の操作ができず画面を表示できない受講生が1名いたが、大きな機器的トラブルは認めなかった。</p>																										
	<p><b>研修について</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>55.0%</td> <td>40.0%</td> <td>5.0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>75.0%</td> <td>25.0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>75.0%</td> <td>15.0%</td> <td>10.0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	理解度	55.0%	40.0%	5.0%	0%	0%	満足度	75.0%	25.0%	0%	0%	0%	活用度	75.0%	15.0%	10.0%	0%	0%
項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																						
理解度	55.0%	40.0%	5.0%	0%	0%																						
満足度	75.0%	25.0%	0%	0%	0%																						
活用度	75.0%	15.0%	10.0%	0%	0%																						

研修名	急性期における家族の思いに寄り添ったケア	開催日	2021年11月25日															
講師	久間 朝子 (福岡大学病院)	企画	教育委員会															
ねらい	急性期における家族ケアを学び実践への手掛かりとするための対応方法を学ぶ。																	
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:40人</td> <td>受講者:38人</td> <td>アンケート回答者数:36人</td> <td>回答率:94.7%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:1人、助産師:1人、看護師:33人、准看護師:1人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:17人、30歳台:9人、40歳台:8人、50歳台:2人</td> </tr> </table>			応募者:40人	受講者:38人	アンケート回答者数:36人	回答率:94.7%	職種	保健師:1人、助産師:1人、看護師:33人、准看護師:1人			年齢	20歳台:17人、30歳台:9人、40歳台:8人、50歳台:2人					
応募者:40人	受講者:38人	アンケート回答者数:36人	回答率:94.7%															
職種	保健師:1人、助産師:1人、看護師:33人、准看護師:1人																	
年齢	20歳台:17人、30歳台:9人、40歳台:8人、50歳台:2人																	
研修内容	<p>Zoom を使用してのオンライン研修で行われた。</p> <p>研修内容は①システムとしての家族・個人としての家族、②患者の様子にとまどう家族、③意思決定支援、④終末期にある患者家族の支援、⑤私たちがケアすることの意味の5つのチャプターに分類され、午前中は講義形式、午後はワーク（個人・グループ）中心に行われた。</p> <p>午前中の講義では以下の内容について説明された。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 家族システム（集団）の特徴、ストレングスマッピングシート</li> <li>② 危機と適応、感情領域・認知領域・行動領域へのアプローチ</li> <li>③ IC 施行前・中・後の支援、悪い知らせを伝える時の配慮、VALUE を用いて家族と話し合う代理意思決定が家族に与える影響</li> <li>④ 死別を経験した家族のたどる道、悲嘆の4要素と反応の頻度、悲嘆を悪化させる因子 複雑性悲嘆、悲嘆作業（Grief work・care）終末宣言時の介入 死亡宣告の配慮、エンゼルケア時の介入、退院時の介入</li> <li>⑤ 事例を参考に、ケアアセスメントとケアの要点を説明</li> </ol> <p>午後はワーク（個人・グループ）では、終末期における支援として、受講生が実際に体験した事例や家族への支援・介入などを出し合い、その後全体発表を行った。</p>																	
まとめ	<p>研修参加者は20代から50代と幅広い年代の参加者であり、急性期や終末期の患者・家族への支援の経験が浅いと思われる20代の比率が約半数と高かった。講義では講師の実体験や事例が紹介され、実際の対応時の声掛けなどの説明がありわかりやすかったとの意見があった。午後からは全ての時間がワークとなり、グループによっては進行が上手くいかず、スムーズな意見交換が行えないなどグループ間での差が生じた。また、アンケート結果から、グループワークのテーマや進行方法などについて受講者の理解が不十分であったと思われる意見があった。Zoom 内でのグループワークは、全体の把握が困難であり、委員の関わり方としても少し検討が必要である。</p>																	
	<div style="text-align: center;"> <h3>研修について</h3> <p>□できる    ■ややできる    ▨ふつう    □ややできない    ■できない</p> <p>0%    10%    20%    30%    40%    50%    60%    70%    80%    90%    100%</p> <table border="1"> <tr> <td>理解度</td> <td>41.7%</td> <td>36.1%</td> <td>19.4%</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>44.4%</td> <td>25.0%</td> <td>22.2%</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>55.6%</td> <td>30.6%</td> <td>11.1%</td> <td>2.8%</td> </tr> </table> </div>			理解度	41.7%	36.1%	19.4%	2.8%	満足度	44.4%	25.0%	22.2%	8.3%	活用度	55.6%	30.6%	11.1%	2.8%
理解度	41.7%	36.1%	19.4%	2.8%														
満足度	44.4%	25.0%	22.2%	8.3%														
活用度	55.6%	30.6%	11.1%	2.8%														

研修名	即実践！伝わる・身につく教え方 ～OJTの際の指導力、研修の設計力を高めよう～	開催日	2021年 11月27日～11月28日																								
講師	杉浦 真由美 (北海道大学)	企画	教育委員会																								
ねらい	指導方法や評価する技術について理解を深め、OJTに生かす。また、教育計画の作成・評価及び修正について理解し、研修の設計力を高め、組織における看護職員育成のための環境作りを学ぶ。																										
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:32人</td> <td>受講者:29人</td> <td>アンケート回答者数:28人</td> <td>回答率:96.6%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:27人、准看護師:1人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:4人、30歳台:8人、40歳台:11人、50歳台:5人</td> </tr> </table>			応募者:32人	受講者:29人	アンケート回答者数:28人	回答率:96.6%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:27人、准看護師:1人			年齢	20歳台:4人、30歳台:8人、40歳台:11人、50歳台:5人														
応募者:32人	受講者:29人	アンケート回答者数:28人	回答率:96.6%																								
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:27人、准看護師:1人																										
年齢	20歳台:4人、30歳台:8人、40歳台:11人、50歳台:5人																										
研修内容	<p>Zoom を使用してのオンライン研修で行われた。2日間の開催であった。</p> <p>1日目は、教えるために必要なスキルとして「運動スキル」「認知スキル」「態度スキル」について教え方が説明された。「運動スキル」では、技術を教授する際、スモールステップの原則で簡単な技術から段階的に教えること、できるようになったらほんの少しだけ難しいステップへ上がること、それを繰り返していくこと、課題をクリアしたときはすぐフィードバックすることが大切であると話された。「認知スキル」では頭を使って考えること、覚えにくいものは「語呂合わせを一緒に考える」などで効果的に記憶できると説明された。「態度スキル」は常に相手を大切に言葉を使う、意欲を向上させるような言葉を使い感情をコントロールするスキルが必要であると説明された。教える側も教えられる側もそれぞれの立場があり、教えられることを仕事として捉え、「教えられ上手」になること、そのために教えられ上手を育てることも必要であると話された。</p> <p>2日目は、午前中は新人看護師が深夜帯患者の急変に遭遇した事例への対応方法について、ブレイクアウトルームを用いたGW（ロールプレイ）を実施した。叱るのではなく、優しくきっぱりと励ますことが協調された。新人看護師の指導場面で困っていることを情報共有し、新人看護師が陥りやすい状況に対する解釈の仕方と対応方法が説明された。実地指導の方法として、認知的徒弟制の5つのポイント、動機付けを高める方法（ARCS動機付けモデル）、ビデオ教材やeラーニングを活用した方法を説明された。動機づけを高める方法についてGWで意見共有され、その後全体発表によって全体でも共有された。午後からは教育計画の作成方法、作成の際の留意点、教育計画のチェック項目が説明された。受講生各自が持ち寄った教育計画についてその内容・工夫している点・改善が必要な点をGWし、その後全体発表で共有した。研修・勉強会設計についてガニエの9教授事象に基づき、各ステップのポイント、勉強会の評価・改善の方法が説明された。最後に社会の変化に伴い、教え方を変えていく必要性、教育とは人が社会でじりつしていくための支援であることが協調された。</p>																										
まとめ	<p>研修に対する理解度・満足度は回答者全てが「できる・ややできる」と回答した。感想・意見では、初めての新人指導でわからないことがたくさんあったが研修をうけてスキルを生かして指導していくことの大切さを学んだ、病院で実践や学んだことは正しいのかの知識の整理ができた、同職種への指導だけでなく動機付けなどは患者指導へも生かせるなどがあり、満足度の高さを反映した感想であった。</p>																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>研修について</th> <th>□できる</th> <th>■ややできる</th> <th>■ふつう</th> <th>□ややできない</th> <th>■できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>67.9%</td> <td>32.1%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>82.1%</td> <td>17.9%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>75.0%</td> <td>17.9%</td> <td>7.1%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			研修について	□できる	■ややできる	■ふつう	□ややできない	■できない	理解度	67.9%	32.1%	0%	0%	0%	満足度	82.1%	17.9%	0%	0%	0%	活用度	75.0%	17.9%	7.1%	0%	0%
研修について	□できる	■ややできる	■ふつう	□ややできない	■できない																						
理解度	67.9%	32.1%	0%	0%	0%																						
満足度	82.1%	17.9%	0%	0%	0%																						
活用度	75.0%	17.9%	7.1%	0%	0%																						

研修名	はじめてのプリセプター ～新人の一番近くに～	開催日	【第1回】2021年12月2日・12月3日 【第2回】2022年1月27日・1月28日																												
講師	江藤 節代 (NPO 法人 日本看護キャリア開発センター)	企画	教育委員会																												
ねらい	新人看護師の特徴、プリセプターの役割、プリセプターとして求められる能力を理解し、新人看護師教育のビジョンの明確化と関わり方を学ぶ																														
受講者概要	<p>【第1回】</p> <table border="1"> <tr> <td>応募者:51人</td> <td>受講者:51人</td> <td>アンケート回答者数:50人</td> <td>回答率:98%</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:32人、30歳台:11人、40歳台:6人、50歳台:1人</td> </tr> </table> <p>【第2回】</p> <table border="1"> <tr> <td>応募者:48人</td> <td>受講者:47人</td> <td>アンケート回答者数:46人</td> <td>回答率:97.9%</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:29人、30歳台:6人、40歳台:10人、50歳台:1人</td> </tr> </table>			応募者:51人	受講者:51人	アンケート回答者数:50人	回答率:98%	年齢	20歳台:32人、30歳台:11人、40歳台:6人、50歳台:1人			応募者:48人	受講者:47人	アンケート回答者数:46人	回答率:97.9%	年齢	20歳台:29人、30歳台:6人、40歳台:10人、50歳台:1人														
応募者:51人	受講者:51人	アンケート回答者数:50人	回答率:98%																												
年齢	20歳台:32人、30歳台:11人、40歳台:6人、50歳台:1人																														
応募者:48人	受講者:47人	アンケート回答者数:46人	回答率:97.9%																												
年齢	20歳台:29人、30歳台:6人、40歳台:10人、50歳台:1人																														
研修内容	<p>ZOOMを使用したオンラインで開催された。</p> <p>1日目は、新人看護師の特徴と背景、新人看護職員卒後臨床研修の努力義務化に至った経緯や法律改正、臨床実践能力の構造について説明があった。今どきの若者の特徴について説明があり、それを踏まえてプリセプターに求められる役割について説明があった。自己の教育観を見直し、指導者中心の指導ではなく学習者中心の指導を行っていくこと、新人看護師は成人学習者であり、成人教育の視点を持って、自己の教育観を振り返ることが大切であることが述べられた。経験を成長につなぐためには「リフレクション」が効果的であることを強調された。</p> <p>2日目は、コーチングは看護専門職の成長を促進する教授法であり、質問を中心としたコミュニケーションを通じて取るべき行動を一緒に探すことであると述べられた。その中で3つのコーチングスキルについて「聴く」「伝える」「質問する」について説明があった。指導するにあたり、やる気や行動を引き出すような指導やWhyをWhat/Howに置き換えることが大切であることの説明があった。その後、講師が準備した事例や実際に関わりの難しさを感じている事例を基に個人ワークを実施。個人ワーク終了後、挙手性で数名の受講者がワーク内容の発表を行い、他の受講者の感想や講師からの助言もあり参加型の研修であった。</p>																														
まとめ	<p>受講者の年齢は、第1回・第2回共に20歳台が最も多かった。本研修に対する満足度・活用度について、「できる」「ややできる」と9割以上が回答している。今後の活用については、看護実践、スタッフ教育と回答した意見が多かった。研修後の意見・感想として、「コーチングの姿勢で関わるのが大切だと学ぶことができた。」「プリセプターに対する考え方や今後プリセプターをするにあたって整理ができた。」など学びが多い研修だった。</p>																														
	<p><b>研修について</b></p> <p>【第1回】</p> <p>□できる □ややできる □ふつう □ややできない □できない</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>0%</th> <th>20%</th> <th>40%</th> <th>60%</th> <th>80%</th> <th>100%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td></td> <td></td> <td>78.0%</td> <td></td> <td>18.0%</td> <td>4.0%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td></td> <td></td> <td>82.0%</td> <td></td> <td>14.0%</td> <td>4.0%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td></td> <td></td> <td>82.0%</td> <td></td> <td>16.0%</td> <td>2.0%</td> </tr> </tbody> </table>				0%	20%	40%	60%	80%	100%	理解度			78.0%		18.0%	4.0%	満足度			82.0%		14.0%	4.0%	活用度			82.0%		16.0%	2.0%
	0%	20%	40%	60%	80%	100%																									
理解度			78.0%		18.0%	4.0%																									
満足度			82.0%		14.0%	4.0%																									
活用度			82.0%		16.0%	2.0%																									
	<p><b>研修について</b></p> <p>【第2回】</p> <p>□できる □ややできる □ふつう □ややできない □できない</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>0%</th> <th>20%</th> <th>40%</th> <th>60%</th> <th>80%</th> <th>100%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td></td> <td></td> <td>60.9%</td> <td></td> <td>34.8%</td> <td>4.3%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td></td> <td></td> <td>69.6%</td> <td></td> <td>21.7%</td> <td>8.2%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td></td> <td></td> <td>73.9%</td> <td></td> <td>21.7%</td> <td>4.3%</td> </tr> </tbody> </table>				0%	20%	40%	60%	80%	100%	理解度			60.9%		34.8%	4.3%	満足度			69.6%		21.7%	8.2%	活用度			73.9%		21.7%	4.3%
	0%	20%	40%	60%	80%	100%																									
理解度			60.9%		34.8%	4.3%																									
満足度			69.6%		21.7%	8.2%																									
活用度			73.9%		21.7%	4.3%																									



研修名	慢性心不全患者の看護		開催日	2021年12月10日																								
講師	馬場 妙子（長崎大学病院） 山本 かおり（光晴会病院）		企画	教育委員会																								
ねらい	慢性心不全の知識を深め、療養支援の実際を学び、看護実践に生かす。																											
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:60人</td> <td>受講者:57人</td> <td>アンケート回答者数:55人</td> <td>回答率:96.5%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:1人、看護師:54人、准看護師:0人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:22人、30歳台:19人、40歳台:8人、50歳台:6人</td> </tr> </table>				応募者:60人	受講者:57人	アンケート回答者数:55人	回答率:96.5%	職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:54人、准看護師:0人			年齢	20歳台:22人、30歳台:19人、40歳台:8人、50歳台:6人														
応募者:60人	受講者:57人	アンケート回答者数:55人	回答率:96.5%																									
職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:54人、准看護師:0人																											
年齢	20歳台:22人、30歳台:19人、40歳台:8人、50歳台:6人																											
研修内容	<p>Zoomを使用したオンラインで実施した。</p> <p>慢性心不全看護認定看護師の資格をもつ2名の講師により、午前、午後前半は講義、午後後半は事例検討(グループワーク)で研修は進められた。研修内容は、心不全の基礎知識として、人口の推移と将来推計をみながら心不全発症率や死因別の割合の比較、原因疾患、症状、発生機序、様々な分類、併存疾患との関連、検査、治療、心臓リハビリテーション、緩和ケアについてガイドラインに沿って詳しく説明された。心不全療養指導では、心不全増悪による再入院が多く、入退院を繰り返すたびに、予後不良となりやすい。そのため、急性増悪を防ぐためにも、バランスのとれた食事や塩分・水分管理、服薬管理といった日常生活での管理及びセルフモニタリング指導が重要であると説明され、包括的な患者管理プログラムの要点を学んだ。午後後半の事例検討では、2つ事例をもとに心不全の療養支援について、グループワークを行った。</p>																											
まとめ	<p>受講者アンケート結果より、研修の理解度・満足度では「できる・ややできる」を合わせ70-80%以上を占めた。活用度では「できる・ややできる」を合わせ90%以上と高評価であり、自由意見でも「グループワークにて幅広い考え方ができて大変勉強になった」「心不全の退院支援について知識が深まった」「グループでの事例をもとに指導や社会的サポートを考えることで様々な知識を得ることができ良い機会となった」などの肯定的意見が多く聞かれた。今後の活用度でも「看護実践」と半数以上が回答しており、グループワークでの情報共有や講義の振り返りといった学びも今回は多いに役立つものであったと考える。このことから受講者のニーズに沿った内容の研修であり、研修のねらいは達成できたと評価する。超高齢社会を迎えて心不全患者が急増している現状を踏まえ、心不全は致命的な症状を招く事も多く、素早的確なアセスメントと対応が必要となる。また、療養行動支援が今後の予後への影響も大きく、医療専門職としての支援介入は重要となってくることから研修受容は高まると考え次年度も継続研修として企画したい。</p>																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>研修について</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>20.0%</td> <td>56.4%</td> <td></td> <td>23.6%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>32.7%</td> <td>49.1%</td> <td></td> <td>18.2%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>47.3%</td> <td>43.6%</td> <td></td> <td>9.1%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				研修について	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	理解度	20.0%	56.4%		23.6%		満足度	32.7%	49.1%		18.2%		活用度	47.3%	43.6%		9.1%	
研修について	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																							
理解度	20.0%	56.4%		23.6%																								
満足度	32.7%	49.1%		18.2%																								
活用度	47.3%	43.6%		9.1%																								

研修名	感染症の最新動向 新興ウイルスと感染予防対策	開催日	2021年12月11日																								
講師	賀来 満夫 (東北医科薬科大学)	企画	教育委員会																								
ねらい	感染に対する最新の動向を学び、感染予防対策に生かす。																										
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:50人</td> <td>受講者:50人</td> <td>アンケート回答者数:50人</td> <td>回答率:100%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:49人、准看護師:1人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:10人、30歳台:14人、40歳台:10人、50歳台:14人、60歳代:2人</td> </tr> </table>			応募者:50人	受講者:50人	アンケート回答者数:50人	回答率:100%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:49人、准看護師:1人			年齢	20歳台:10人、30歳台:14人、40歳台:10人、50歳台:14人、60歳代:2人														
応募者:50人	受講者:50人	アンケート回答者数:50人	回答率:100%																								
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:49人、准看護師:1人																										
年齢	20歳台:10人、30歳台:14人、40歳台:10人、50歳台:14人、60歳代:2人																										
研修内容	<p>Zoomによるオンライン研修で実施された。</p> <p>講義内容は新型コロナウイルス感染症の現状、特徴、課題と今後の対応であった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の現状では、コロナウイルスの種類（風邪を起こすコロナウイルス:4種類）、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）発生状況（日本・世界）、気温と新型コロナウイルスの安定性（市中伝播は気温・湿度が低い地域で観察されている）、新型コロナウイルス感染症の要因（季節的要因・3密要因・行動要因）であった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の特徴では、症状（発熱、咳、倦怠感、食欲低下・嗅覚・味覚障害、消化器症状など）、経過（病態・予後）、生体・環境への定着性、伝播性の特徴であった。</p> <p>新型コロナウイルスへの課題と今後の対応では、新型コロナウイルス感染症の問題点と課題、無症状からの伝播、マイクロ飛沫による伝播、変異株の出現であった。</p> <p>今後の対応のポイントでは、予防・治療のさらなる推進、継続した感染症対策、ソーシャルネットワークの構築であり、今後の課題では、感染が拡大した際の医療体制について説明された。</p>																										
まとめ	<p>今回はコロナウイルス感染症とは別に「迫り来る感染症の脅威」というテーマも用意してあったが、コロナウイルス感染症をメインとした研修であった。タイムリーなテーマであり、参加者も50名と多く理解度・満足度・活用度ともに「できる」「ややできる」の項目が90%を超えていた。自由意見からも、最新のトピックスが学べ、わかりやすく有意義な研修であったとの意見も多く、今後も継続研修として企画検討してよいと考える。</p>																										
	<p><b>研修について</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>54.0%</td> <td>38.0%</td> <td>8.0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>68.0%</td> <td>24.0%</td> <td>6.0%</td> <td>2.0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>70.0%</td> <td>26.0%</td> <td>4.0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	理解度	54.0%	38.0%	8.0%	0%	0%	満足度	68.0%	24.0%	6.0%	2.0%	0%	活用度	70.0%	26.0%	4.0%	0%	0%
項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																						
理解度	54.0%	38.0%	8.0%	0%	0%																						
満足度	68.0%	24.0%	6.0%	2.0%	0%																						
活用度	70.0%	26.0%	4.0%	0%	0%																						

研修名	意思決定支援～終末期における輸液・鎮静	開催日	2021年12月18日												
講師	中嶋 由紀子／古田 美津子 (社会医療法人春回会 出島病院)	企画	教育委員会												
ねらい	終末期患者やその家族の「輸液・鎮静」に関する意思決定を支える看護師の役割を学ぶ。														
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:53人</td> <td>受講者:43人</td> <td>アンケート回答者数:39人</td> <td>回答率:90.7%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:3人、看護師:36人、准看護師:0人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:5人、30歳台:9人、40歳台:18人、50歳台:7人</td> </tr> </table>			応募者:53人	受講者:43人	アンケート回答者数:39人	回答率:90.7%	職種	保健師:0人、助産師:3人、看護師:36人、准看護師:0人			年齢	20歳台:5人、30歳台:9人、40歳台:18人、50歳台:7人		
応募者:53人	受講者:43人	アンケート回答者数:39人	回答率:90.7%												
職種	保健師:0人、助産師:3人、看護師:36人、准看護師:0人														
年齢	20歳台:5人、30歳台:9人、40歳台:18人、50歳台:7人														
研修内容	<p>Zoom を使用してのオンライン研修で行われた。午前中は中嶋由紀子先生、午後は古田美津子先生の講義があり、最後はグループワークを実施した。</p> <p>午前は、人生の最終段階における意思決定支援、がんと緩和ケアに関する内容であった。人生の最終段階における意思決定支援では、国内の高齢者に係る概況（高齢者世帯の割合等）と死を取り巻く社会状況の変化による影響、意思決定支援の必要性、アドバンス・ケア・プランニング、人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインについて説明された。がんと緩和ケアでは、がんに関する状況とがん対策基本計画、身体面・精神面・社会面からの緩和ケア、家族へのケア、臨床倫理（医療倫理の4原則）を説明された。</p> <p>午後は終末期における輸液・鎮静に関する内容であった。輸液では、終末期がん患者に対する輸液治療のガイドライン、経口摂取の低下に対する緩和治療と適用の注意点、終末期の輸液・栄養管理の考え方、輸液の減量・中止するタイミング、食べられないときのケアを説明された。鎮静では、がん患者の治療抵抗性の苦痛と鎮静に関する基本的な考え方の手引き、鎮静と安楽死の違い、鎮静の分類、鎮静薬の使用法、鎮静時のケアを説明された。また、患者とのロールプレイを通して情報提供方法や対応方法が紹介された。最後にがん患者の事例をもとにグループワークが行われ、輸液・鎮静に関する援助内容について検討された。ワークの内容は全体発表で共有された。</p>														
まとめ	<p>研修に対する理解度・満足度は90%以上の回答者が「できる・ややできる」と回答した。感想・意見では、自分はこれで良かったのかと葛藤があったが今回の研修を通して終末期患者・家族への対応について学ぶことができるとも充実した時間となった、告知同席時や同席前後の患者さんやご家族への声かけやアプローチが増えた、輸液について必要な知識を得ることができた、患者や家族が納得し安心して治療を受けられるように情報提供や思いを確認することは大切だと感じたなどがあり、満足度の高さを反映した感想であった。</p> <p>今回の研修は、約50名の受講生であったが時間内に出席確認ができた。音声や画像がつかない受講生がおり、個別に電話対応した。</p>														
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>研修について</b></p> <p>□できる    ■ややできる    ▣ふつう    □ややできない    ■できない</p> <p>0%   10%   20%   30%   40%   50%   60%   70%   80%   90%   100%</p> <table border="1"> <tr> <td>理解度</td> <td>59.0%</td> <td>38.5%</td> <td>2.6%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>71.8%</td> <td>25.6%</td> <td>2.6%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>64.1%</td> <td>28.2%</td> <td>7.7%</td> </tr> </table> </div>			理解度	59.0%	38.5%	2.6%	満足度	71.8%	25.6%	2.6%	活用度	64.1%	28.2%	7.7%
理解度	59.0%	38.5%	2.6%												
満足度	71.8%	25.6%	2.6%												
活用度	64.1%	28.2%	7.7%												

研修名	実践に生かす！ 糖尿病の最新知識とセルフケア支援			開催日	2022年1月23日														
講師	明島 淳也 (独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター) 平野 晃彦 (済生会長崎病院)			企画	教育委員会														
ねらい	糖尿病について知識を深め、患者ケアや療養指導について学び看護実践能力を高める。																		
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:44人</td> <td>受講者:40人</td> <td>アンケート回答者数:40人</td> <td>回答率:100%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="4">保健師:0人、助産師:1人、看護師:39人、准看護師:0人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="4">20歳台:11人、30歳台:15人、40歳台:9人、50歳台:4人</td> </tr> </table>					応募者:44人	受講者:40人	アンケート回答者数:40人	回答率:100%	職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:39人、准看護師:0人				年齢	20歳台:11人、30歳台:15人、40歳台:9人、50歳台:4人			
応募者:44人	受講者:40人	アンケート回答者数:40人	回答率:100%																
職種	保健師:0人、助産師:1人、看護師:39人、准看護師:0人																		
年齢	20歳台:11人、30歳台:15人、40歳台:9人、50歳台:4人																		
研修内容	<p>Zoomを使用したオンラインで実施した。</p> <p>午前中は糖尿病内分泌医である講師より、糖尿病に関連した項目を、受講者それぞれ指名しながら意見を聞き解答・解説していく Q&amp;A 方式で進められた。内容は最新の動向を踏まえながら、サプリメントやコロナワクチン、肺炎球菌ワクチンの重要性、血糖測定器リブレ、腎機能と SGLT2 阻害薬、肥満や心不全治療に使用する利尿剤との関連性や注意点、無自覚性低血糖など、重症化予防に対する取り組みについて説明された。</p> <p>午後からは、糖尿病看護認定看護師より、セルフケア支援のポイントとして、薬物療法、フリースタイルリブレについて説明された。薬物療法では種類や混合剤が増えており経口薬・インスリン注射など、一覧表での紹介があった。フリースタイルリブレについては、血糖測定器加算、使用方法、各レポート(結果)の活用について説明された。午後後半は、個々のワークで事例検討し講義内容のまとめとした。</p>																		
まとめ	<p>研修に対する理解度・満足度・活用度は「できる・ややできる」を合わせて 80%以上であり高評価であった。自由意見でも「分かり易く楽しい研修だった」「最新の知識が得られた」「看護の実践に活かせる内容がたくさんあり、具体的思考にも役立った」など満足度の高さを反映した意見が多く聞かれた。今後の活用度でも「看護実践」と半数以上が回答しており、分かりやすい説明で実践に繋がる内容であったことから研修のねらいは達成できたと評価する。糖尿病発症率は増加傾向にあり、そのなかでもセルフケア支援は重要といわれており、今後も関心の高いテーマであることから、次年度も継続研修としたい。</p>																		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>研修について</b></p> <p>□できる    ■ややできる    ▨ふつう    □ややできない    ■できない</p> <p>0%   10%   20%   30%   40%   50%   60%   70%   80%   90%   100%</p> <table border="1"> <tr> <td>理解度</td> <td>37.5%</td> <td>45.0%</td> <td>17.5%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>50.0%</td> <td>35.0%</td> <td>15.0%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>52.5%</td> <td>35.0%</td> <td>12.5%</td> </tr> </table> </div>					理解度	37.5%	45.0%	17.5%	満足度	50.0%	35.0%	15.0%	活用度	52.5%	35.0%	12.5%		
理解度	37.5%	45.0%	17.5%																
満足度	50.0%	35.0%	15.0%																
活用度	52.5%	35.0%	12.5%																

研修名	楽しく学ぼう！理解を深めよう！ 循環器領域の検査データの見方・活かし方	開催日	2022年2月6日																												
講師	櫻川 浩一郎 (櫻川循環器内科クリニック)	企画	教育委員会																												
ねらい	循環器疾患に関連する検査データの基礎知識を学び、看護実践に生かす。																														
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:58人</td> <td>受講者:56人</td> <td>アンケート回答者数:52人</td> <td>回答率:92.9%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:52人、准看護師:0人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:32人、30歳台:11人、40歳台:7人、50歳台:2人</td> </tr> </table>			応募者:58人	受講者:56人	アンケート回答者数:52人	回答率:92.9%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:52人、准看護師:0人			年齢	20歳台:32人、30歳台:11人、40歳台:7人、50歳台:2人																		
応募者:58人	受講者:56人	アンケート回答者数:52人	回答率:92.9%																												
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:52人、准看護師:0人																														
年齢	20歳台:32人、30歳台:11人、40歳台:7人、50歳台:2人																														
研修内容	<p>ZOOMを使用したオンラインで実施した。</p> <p>講義内容は、午前は循環器領域で行われる胸部レントゲン・心電図・心エコー検査について見るポイントの説明があった。胸部レントゲンではCTR(心胸比)の計算の方法や、心不全がないか心拡大や肺うっ血、胸水貯留の有無について画像の特徴と見方の説明が行われた。心電図では刺激伝導系や心臓の興奮であるP波やQRS波について、同不全症候群・房室ブロック・上室性期外収縮・心室性期外収縮・心房細動・心室細動・心筋虚血の経過やST変化について解説された。心エコーでは左室全体の評価や弁の狭窄と閉鎖不全の見方について、動画を見ながら解説された。午後からは血液生化学検査、心臓カテーテル検査、心筋シンチについて説明があった。血液生化学検査では心不全を見るBNPや心筋虚血を見るトロポニン、炎症反応や電解質・肝機能について、冠危険因子を見分ける脂質代謝・糖代謝について解説された。心臓カテーテル検査や心筋シンチも画像を用いて、何を見ているかの解説があった。検査について解説があったが、基本は“患者さんを直接見ること”であり、意識状態や脈拍、血圧から患者の状態や症状を観察することが重要であることを説明された。</p>																														
まとめ	<p>受講生は20歳台～50歳台まで幅広い年代であった。研修内容について、理解度は「できる」「ややできる」を合わせて84.6%であったが、満足度・活用度については「できる」「ややできる」を合わせて90.4%と評価が高かった。「検査所見の重要性、見方についても詳しく学ぶことができた。」との意見もあり、各検査の説明はポイントを絞ったわかりやすい内容であった。また「仕事中的事を思い出しながら、また振り返りながら講義を受けることが出来た」や「明日からの業務で検査データや心電図を観察する時の視点が変わると思う」など、振り返りや今後の実践にも活用できる研修内容であった。受講生の意見からもわかるように、本研修のねらいは達成できていると考える。</p> <p>オンライン受講については、今回は講師側のトラブルにて20分ほど研修が中断したが、今後もオンライン(zoom)による研修を希望すると86.5%の人が答えており、本研修はオンライン研修が適していると評価する。</p>																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">研修について</th> <th>□できる</th> <th>■ややできる</th> <th>▨ふつう</th> <th>□ややできない</th> <th>■できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>57.7%</td> <td>26.9%</td> <td>15.4%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>63.5%</td> <td>26.9%</td> <td>9.6%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>69.2%</td> <td>21.2%</td> <td>9.6%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			研修について		□できる	■ややできる	▨ふつう	□ややできない	■できない	理解度	57.7%	26.9%	15.4%				満足度	63.5%	26.9%	9.6%				活用度	69.2%	21.2%	9.6%			
研修について		□できる	■ややできる	▨ふつう	□ややできない	■できない																									
理解度	57.7%	26.9%	15.4%																												
満足度	63.5%	26.9%	9.6%																												
活用度	69.2%	21.2%	9.6%																												

研修名	在宅での看取りと多職種連携の実際	開催日	2021年9月25日																								
講師	岩本佐由利 / 菅 多恵子 (社会医療法人春回会 出島病院)	企画	教育委員会																								
ねらい	在宅における看取りのケアに必要な知識を学び、多職種と協働した看取りの在り方を学ぶ。																										
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:32人</td> <td>受講者:29人</td> <td>アンケート回答者数:25人</td> <td>回答率:86.2%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:1人、助産師:0人、看護師:23人、准看護師:0人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:2人、30歳台:5人、40歳台:10人、50歳台:7人、60歳代:1人</td> </tr> </table>			応募者:32人	受講者:29人	アンケート回答者数:25人	回答率:86.2%	職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:23人、准看護師:0人			年齢	20歳台:2人、30歳台:5人、40歳台:10人、50歳台:7人、60歳代:1人														
応募者:32人	受講者:29人	アンケート回答者数:25人	回答率:86.2%																								
職種	保健師:1人、助産師:0人、看護師:23人、准看護師:0人																										
年齢	20歳台:2人、30歳台:5人、40歳台:10人、50歳台:7人、60歳代:1人																										
研修内容	<p>Zoomを使用したオンラインで実施した。</p> <p>今回の研修は、午前・午後に分け2名の講師に講義を行ってもらった。テーマは、午前は在宅での看取り～緩和ケア～、午後は在宅での看取りと多職種連携の実際であった。研修内容は、午前の「在宅での看取り～緩和ケア～」では緩和ケアの定義、痛み、薬剤に関する内容であった。痛みはがんを有する本人が体験することであり、痛みの感じ方や感覚は体験している本人しかわからないこと、トータルペイン（身体的苦痛・社会的苦痛・精神的苦痛・スピリチュアルペイン）の視点で患者を捉えることが必要であることが説明された。また、薬剤を正しく理解し使用することは看護の大切な役割であることを説明された。</p> <p>午後の「在宅での看取りと多職種連携の実際」では、看取りにかかわる現状と講師の勤務先である出島病院の緩和ケアの実際についての内容であった。実際の事例を用いて、外来受診時から多職種が関わり、患者・家族の不安や悩みに対して相談や提案を行い、少しでも長く在宅で過ごせるよう、本人・家族の負担軽減のための支援を行うことが説明された。</p>																										
まとめ	<p>今回の受講者29名は20歳代から60歳代と幅広い年代層であった。研修に対する理解度はアンケート回答者全てが「できる・ややできる」と回答した。満足度・活用度については96%が「できる・ややできる」と回答した。感想・意見では、在宅での看取りについて看護師の役割が理解できた、事例を踏まえながらの講義で分かりやすかった、実践内容が聞いて凄く参考になったなどであり、満足度の高さを反映した感想であった。</p> <p>オンライン講義であったが、朝の画面共用動作確認時講義スライドが正常に作動しなかった。昼休憩中の動作確認によって問題なく講義を実施できた。</p>																										
	<p><b>研修について</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>56.0%</td> <td>44.0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>60.0%</td> <td>36.0%</td> <td>4.0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>56.0%</td> <td>40.0%</td> <td>4.0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	理解度	56.0%	44.0%	0%	0%	0%	満足度	60.0%	36.0%	4.0%	0%	0%	活用度	56.0%	40.0%	4.0%	0%	0%
項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																						
理解度	56.0%	44.0%	0%	0%	0%																						
満足度	60.0%	36.0%	4.0%	0%	0%																						
活用度	56.0%	40.0%	4.0%	0%	0%																						

研修名	地域での療養を支える外来看護	開催日	2021年10月23日													
講師	白川 美佳 (地方独立行政法人佐世保市総合医療センター)	企画	教育委員会													
ねらい	地域での療養支援を支える外来看護師の役割を理解し、専門外来の看護介入を学ぶ。															
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:17人</td> <td>受講者:17人</td> <td>アンケート回答者数:17人</td> <td>回答率:100%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:2人、助産師:0人、看護師:14人、准看護師:1人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:1人、30歳台:3人、40歳台:8人、50歳以上:5人</td> </tr> </table>			応募者:17人	受講者:17人	アンケート回答者数:17人	回答率:100%	職種	保健師:2人、助産師:0人、看護師:14人、准看護師:1人			年齢	20歳台:1人、30歳台:3人、40歳台:8人、50歳以上:5人			
応募者:17人	受講者:17人	アンケート回答者数:17人	回答率:100%													
職種	保健師:2人、助産師:0人、看護師:14人、准看護師:1人															
年齢	20歳台:1人、30歳台:3人、40歳台:8人、50歳以上:5人															
研修内容	<p>ZOOMを使用したオンラインで開催された。</p> <p>研修内容は、前半は在宅療養支援、外来看護師の役割及び専門的支援に関する内容であった。在宅療養支援ではその定義、背景、地域包括ケアシステムが説明された。外来看護師の役割では、病状管理及び医療処置への支援、治療継続支援、意思決定支援、在宅サービス利用支援について具体的事例を紹介しながら説明された。外来看護師による専門的支援では実際の事例を用いて支援のポイントが説明された。</p> <p>後半は外来看護師と地域連携に関する内容であった。訪問看護師との連携、入退院支援が説明された。実際の事例を紹介しながら、入院前より退院後の生活を見据えた支援の必要性について強調された。最後に在宅療養における意思決定支援について説明された。</p>															
まとめ	<p>研修に対する理解度は82.3%、満足度は70.6%の受講生が「できる・ややできる」と回答した。活用度については70.3%が「できる・ややできる」回答した。受講生から「診療報酬と支援が結び付き、実践していることが間違っていないことも確認できた」「講義で示された外来看護師の役割と実際を比較して、できていることが多く自信が持てた」との意見があり、本研修が外来での看護活動に不安のある受講生にとっては実りのある研修内容であったと判断できる。しかし一方で、満足度に関して、約30%の受講者が「ふつう・ややできない」と回答しており、「連携室に所属しており、全般的なことは知っていたので具体的な実践工夫について知りたかった」との自由回答も認められたことから、期待した研修ではなかったと感じる受講生もいた可能性がある。今後は研究内容を再検討する必要がある。</p> <p>オンラインに関しては、研修参加に支障をきたすほどのトラブルはなかった。</p>															
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>研修について</b></p> <p>□できる    ■ややできる    ▣ふつう    □ややできない    ■できない</p> <p>0%   10%   20%   30%   40%   50%   60%   70%   80%   90%   100%</p> <table border="1"> <tr> <td>理解度</td> <td>52.9%</td> <td>29.4%</td> <td>17.6%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>47.1%</td> <td>23.5%</td> <td>23.5%</td> <td>5.9%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>35.3%</td> <td>35.3%</td> <td>29.4%</td> </tr> </table> </div>			理解度	52.9%	29.4%	17.6%	満足度	47.1%	23.5%	23.5%	5.9%	活用度	35.3%	35.3%	29.4%
理解度	52.9%	29.4%	17.6%													
満足度	47.1%	23.5%	23.5%	5.9%												
活用度	35.3%	35.3%	29.4%													

研修名	地域包括ケア時代の看護師の役割 ～退院支援への取り組み～	開催日	2021年11月21日																								
講師	木口 綾子／福田 貴子 (長崎川棚医療センター)	企画	教育委員会																								
ねらい	多職種・地域との連携を図り、円滑な退院調整、退院支援が行える必要な知識と役割を学ぶ。																										
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:53人</td> <td>受講者:50人</td> <td>アンケート回答者数:49人</td> <td>回答率:98.0%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:1人、助産師:1人、看護師:46人、准看護師:0人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:10人、30歳台:6人、40歳台:21人、50歳台:10人、60歳台:2人</td> </tr> </table>			応募者:53人	受講者:50人	アンケート回答者数:49人	回答率:98.0%	職種	保健師:1人、助産師:1人、看護師:46人、准看護師:0人			年齢	20歳台:10人、30歳台:6人、40歳台:21人、50歳台:10人、60歳台:2人														
応募者:53人	受講者:50人	アンケート回答者数:49人	回答率:98.0%																								
職種	保健師:1人、助産師:1人、看護師:46人、准看護師:0人																										
年齢	20歳台:10人、30歳台:6人、40歳台:21人、50歳台:10人、60歳台:2人																										
研修内容	<p>Zoom を使用してオンラインで開催した。</p> <p>午前中は退院支援、退院調整が求められる背景、講師自身が経験した退院支援に関する内容であった。診療報酬改定の経緯から地域包括ケアシステムの変容について説明され、退院支援・退院調整が求められる背景は治療中心の病院医療から「生活者として地域に帰せる医療」へ変化しており、退院支援とは「患者が病気や障害をもちながら、それでも、生きようと前を向く過程を支えること」であることが述べられた。</p> <p>次に地域包括ケアシステムの概要、病院が果たす機能とシステム作りについては地域包括ケアシステムの5つの構成要素（住まい・医療・介護・予防・生活支援）が交互に関係しながら、系統的に提供されなければならないこと、実際の訪問看護の事例から地域包括ケアシステム構築のプロセスが説明された。</p>																										
まとめ	<p>研修に対する理解度・満足度・活用度は90%以上の回答者が「できる・ややできる」と回答した。感想・意見では、事例を通しての講義内容であったため具体的でわかりやすかった、アイデアを活用していきたい、急性期病棟からの異動で退院支援についてわからなかったことや患者、家族との関わりについて事例を通して退院先の生活・治療の場を選択する大切なことであると学ぶことができた、などがあり、多くの受講者が退院支援へのジレンマがあり今回の研修で退院支援の関わり方、調整を学ぶことができそれぞれの施設で活用していきたいとの感想であった。来年度も継続して退院支援の研修を実施する必要があると考える。</p> <p>今回の研修は50名の受講があり1名アンケート回答がなかった。受講生の出席確認は比較的スムーズにできたが、音声や画像がつかない受講生が3名おり、個別に電話対応した。</p>																										
	<div data-bbox="311 1682 1485 1980" data-label="Figure"> <p><b>研修について</b></p> <p>□できる    ■ややできる    ▣ふつう    □ややできない    ■できない</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>できる</th> <th>ややできる</th> <th>ふつう</th> <th>ややできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>61.2%</td> <td>34.7%</td> <td>4.1%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>65.3%</td> <td>30.6%</td> <td>2.0%</td> <td>2.0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>65.3%</td> <td>28.6%</td> <td>4.1%</td> <td>2.0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> </div>			項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない	理解度	61.2%	34.7%	4.1%	0%	0%	満足度	65.3%	30.6%	2.0%	2.0%	0%	活用度	65.3%	28.6%	4.1%	2.0%	0%
項目	できる	ややできる	ふつう	ややできない	できない																						
理解度	61.2%	34.7%	4.1%	0%	0%																						
満足度	65.3%	30.6%	2.0%	2.0%	0%																						
活用度	65.3%	28.6%	4.1%	2.0%	0%																						



研修名	看護管理の基礎知識	開催日	2022年2月16日・17日												
講師	平山 喜美子／福田 妙子 (長崎県看護協会)	企画	認定看護管理者教育課程 専任教員												
ねらい	看護専門職として必要な看護管理に関する基本的な知識を習得する。														
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:35人</td> <td>受講者:34人</td> <td>アンケート回答者数:34人</td> <td>回答率:100%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:34人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:0人、30歳台:10人、40歳台:19人、50歳台:5人</td> </tr> </table>			応募者:35人	受講者:34人	アンケート回答者数:34人	回答率:100%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:34人			年齢	20歳台:0人、30歳台:10人、40歳台:19人、50歳台:5人		
応募者:35人	受講者:34人	アンケート回答者数:34人	回答率:100%												
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:34人														
年齢	20歳台:0人、30歳台:10人、40歳台:19人、50歳台:5人														
研修内容	<p>看護管理者を目指し、認定看護管理者教育課程ファーストレベル未受講者を対象とした。感染拡大状況にあり、集合研修からオンライン研修に変更した。</p> <p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織の役割や、所属部署での看護管理者の役割を理解できる。</li> <li>2. 看護管理に必要な知識を習得する。</li> </ol> <p>講義は、1日目に組織の成り立ち、看護管理の歴史、定義、保健師助産師看護師法、看護業務基準、2日目は看護サービス、チーム医療、医療安全、目標管理の内容であった。組織の成り立ちと構造、看護管理の歴史、定義、看護管理者とはについて、組織の構造や機能を理解するための基本的な内容や組織のマネジメントを進めるための必要な機能など具体的な講義であった。保健師助産師看護師法、看護業務基準は、看護師、准看護師の定義、看護実践の基準、看護実践の組織化の基準、看護職の倫理綱領など、2021年改訂版看護業務基準を活用した内容であった。看護サービス、チーム医療、医療安全は、サービスの特徴、看護サービスの質とその保証、チーム医療における看護師の役割、リーダーに求められる専門性、医療安全に関する概念の整理、医療安全に関する組織の整備などをオンラインでワークを入れながら、意見交換を実施した。目標管理は、個人目標管理、目標面接、主任の役割の内容を実施した。目標管理の基本、目標設定のポイントなどから部署のあるべき姿を個人ワークで言語化した内容を発表した。</p>														
まとめ	<p>受講者の職位は、師長は11.8%、主任・副師長は58.8%、看護師は23.5%、副主任は5.9%で主任・副師長が最も多かった。研修内容は、理解できた17.6%、まあまあ理解できたが82.4%であった。受講者の半数以上が、主任・副師長であり、臨床で実践している看護管理についても確認できる内容であった。ファーストレベルの受講については、機会があれば、受講したいと回答した受講者は70.6%、受講しない2.9%。どちらともいえない26.5%であった。</p> <p>看護管理者は、組織において求められる役割遂行に必要な能力、および地域社会のニーズに対応する組織へと変革するためのリーダーシップとマネジメント能力が必要とされる。看護管理に関心を持ち、認定看護管理者教育課程ファーストレベル受講に期待したい。</p>														
	<p><b>研修について</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">理解度</td> <td>理解できた: 17.6%</td> </tr> <tr> <td>まあまあ理解できた: 82.4%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">活用度</td> <td>活用できる: 55.9%</td> </tr> <tr> <td>まあまあ活用できる: 44.1%</td> </tr> </tbody> </table>			項目	割合	理解度	理解できた: 17.6%	まあまあ理解できた: 82.4%	活用度	活用できる: 55.9%	まあまあ活用できる: 44.1%				
項目	割合														
理解度	理解できた: 17.6%														
	まあまあ理解できた: 82.4%														
活用度	活用できる: 55.9%														
	まあまあ活用できる: 44.1%														

研修名	看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版)を活用した教育体制における評価の実際 【JNA オンデマンド研修 143】	開催日	2021年9月19日												
講師	森 孝子 (市立大村市民病院)	企画	研修センター												
ねらい	看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版)を活用した組織における人材育成の取り組みの実際を学び、自施設における教育体制の評価方法に役立てる。														
受講者概要	<table border="1"> <tr> <td>応募者:12人</td> <td>受講者:12人</td> <td>アンケート回答者数:12人</td> <td>回答率:100%</td> </tr> <tr> <td>職種</td> <td colspan="3">保健師:0人、助産師:0人、看護師:12人</td> </tr> <tr> <td>年齢</td> <td colspan="3">20歳台:0人、30歳台:1人、40歳台:6人、50歳台:5人</td> </tr> </table>			応募者:12人	受講者:12人	アンケート回答者数:12人	回答率:100%	職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:12人			年齢	20歳台:0人、30歳台:1人、40歳台:6人、50歳台:5人		
応募者:12人	受講者:12人	アンケート回答者数:12人	回答率:100%												
職種	保健師:0人、助産師:0人、看護師:12人														
年齢	20歳台:0人、30歳台:1人、40歳台:6人、50歳台:5人														
研修内容	<p>Zoomを使用したオンラインで開催した。</p> <p>本研修は、専門能力開発を支援するための教育体制の充実に向けた継続で研修分類4に位置付け、施設内教育におけるJNAラダー活用のための研修内容とした。対象は、ラダーレベルⅢ～Ⅳ、教育担当者またはその任にある看護師。導入として、日本看護協会インターネット配信オンデマンド教材コンテンツ「JNAラダーを活用した組織における人材育成の考え方」「看護実践能力の自己評価力の育成」「評価者育成と評価体制の構築」「OJTにおける評価の実際」を視聴。確認テストでJNAラダーに関する評価の考え方を確認した。次に、受講者施設のラダー活用状況の事前調査結果を踏まえ、受講者のニーズに対応できるよう施設で困っている現状や不明な事を取り上げ、1つ1つ解決できるような内容で展開された。受講者施設で、困っている事では、評価者による評価のバラツキや、評価者自身がラダーを十分に把握していないことがあげられていた。講師の施設で使用している看護師のクリニカルラダーの概要とJNAラダーを活用した教育概要を丁寧に説明し、使用している評価方法を自己評価と他者評価の実際について示された。</p>														
まとめ	<p>受講施設は7施設で、クリニカルラダーは自施設独自のもの、JNAラダーをベースに施設に合わせた評価項目を取り入れている施設、独自のラダーから系統施設の共有ラダーに移行中の施設、ラダー活用してなくこれから導入予定の施設と様々な参加施設であった。導入でJNAラダー教材を視聴する事で、概要、考え方について再認識につながった。またアンケート結果では、できる・ややできるは、理解度91.7%、満足度66.7%、活用度83.4%と高い評価を得ている。意見としては、導入にあたり参考になった、評価方法が理解できた、できていることを評価して、月に繋がるような指導評価をしていきたい、全体的にラダーの求めているものが明確になったとの意見があった。反面、具体的な評価の実際について、評価項目の内容を知りたいとの意見もあった。クリニカルラダー導入後の評価については、あらゆる施設で意見交換がみつようである。今回はオンラインとなったため、集合で、施設間の意見交換とつながりを深められるような研修形態を進めていく必要がある。</p>														
	<div style="text-align: center;"> <p><b>研修について</b></p> <p>□できる ■ややできる ▨ふつう □ややできない ■できない</p> <p>0%      20%      40%      60%      80%      100%</p> <table border="1"> <tr> <td>理解度</td> <td>16.7%</td> <td>75.0%</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>16.7%</td> <td>50.0%</td> <td>33.3%</td> </tr> <tr> <td>活用度</td> <td>41.7%</td> <td>41.7%</td> <td>16.7%</td> </tr> </table> </div>			理解度	16.7%	75.0%	8.3%	満足度	16.7%	50.0%	33.3%	活用度	41.7%	41.7%	16.7%
理解度	16.7%	75.0%	8.3%												
満足度	16.7%	50.0%	33.3%												
活用度	41.7%	41.7%	16.7%												

# 認定看護管理者教育課程

## I. ファーストレベル

### 1. 教育目的

看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する。

### 2. 到達目標

- 1) ヘルスケアシステムの構造と現状を理解できる。
- 2) 組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析できる。
- 3) 看護管理者の役割と活動を理解し、これからの看護管理者のあり方を考察できる。

### 3. カリキュラム

教科目	単元	教育内容	講師	時間数
ヘルスケアシステム論Ⅰ	社会保障制度概論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障制度の体系</li> <li>・社会保障の関連法規</li> </ul>	尾形 裕也	15
	保健医療福祉サービスの提供体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健医療福祉制度の体系</li> <li>・地域包括ケアシステム</li> <li>・地域共生社会</li> </ul>		
	ヘルスケアサービスにおける看護の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看書連携</li> <li>・地域連携における看護職の役割</li> <li>・保健医療福祉関連職種への理解</li> <li>・看護の社会的責務と業務基準</li> <li>看護関連法規 倫理綱領</li> <li>看護業務基準</li> </ul>	佐竹 啓子 西村伊知恵	
組織管理論Ⅰ	組織マネジメント概論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織マネジメントに関する基礎知識</li> <li>・看護管理の基礎知識</li> </ul>	木下日出美	15
	看護実践における倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護実践における倫理的課題</li> <li>・倫理的意思決定への支援</li> </ul>	井口 悦子	
人材管理Ⅰ	労務管理の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働法規・就業規則</li> <li>・健康管理（メンタルヘルスを含む）</li> <li>・雇用形態・勤務体制</li> <li>・ワークライフバランス</li> <li>・ハラスメント防止</li> </ul>	山内小百合	30
	看護チームのマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームマネジメント</li> <li>・看護ケア提供方式</li> <li>・リーダーシップとメンバーシップ</li> <li>・コミュニケーション</li> <li>・ファシリテーション</li> </ul>	楠本 直美 江藤 節代	
		人材育成の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・准看護師への指示と業務</li> <li>・看護補助者の活用</li> <li>・成人学習の原理</li> <li>・役割理論</li> <li>・動機づけ理論</li> <li>・人材育成の方法</li> </ul>	
	経営資源と管理の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療・介護報酬制度の理解</li> <li>・経営指標の理解</li> <li>・看護活動の経済的効果</li> </ul>	岡田みずほ	
資源管理Ⅰ	看護実践における情報管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・看護情報の種類と特徴</li> <li>・情報管理における倫理的課題（情報リテラシー）</li> </ul>	宇都由美子	15
	看護サービスの質管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスの基本概念</li> <li>・看護サービスの質評価と改善</li> <li>・看護サービスの安全管理</li> <li>・看護サービスと記録</li> </ul>	佐田 明子 福田 妙子	15
統合演習Ⅰ	演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を踏まえ、受講者が取り組む課題を明確にし、対応策を立案する。</li> </ul>	演習支援者	15

レポートの書き方3時間 看護管理実践計画発表6時間

総時間数114時間

#### 4. 受講要件

- 1) 日本国の看護師免許を有する者。
- 2) 看護師免許を取得後、実務経験が通算5年間以上ある者
- 3) 管理業務に関心がある者。

#### 5. 日程・応募・受講状況

(人)

	実施期間	定員	応募者	決定者	受講者	修了者
第1回	5月20日(木)～9月26日(日)(20日間)	100	117	54	53	52
第2回	10月7日(木)～令和4年1月30日(日)(20日間)			52	52	53

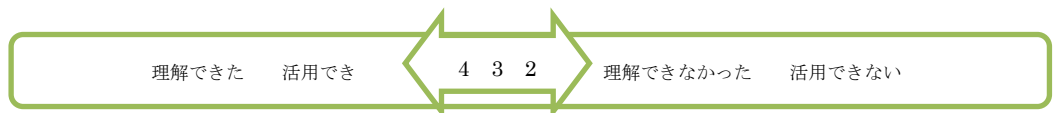
\*第2回修了者は第1回未修了者1人を含む

#### 6. 受講者職位

(人)

	部長	次長	師長・課長	主任・副師長・ 係長	副主任・ 主任代行	スタッフ	専任教員	計
第1回	0	1	7	35	2	8	0	53
第2回	1	0	8	34	0	8	2	52

#### 7. アンケート結果



教科目	単元	第1回		第2回	
		理解度	活用度	理解度	活用度
ヘルスケアシステム論 I	社会保障制度概論・保健医療福祉サービスの提供体制	3.25	3.32	3.29	3.46
	ヘルスケアサービスにおける看護の役割	3.60	3.58	3.64	3.75
組織管理論 I	組織マネジメント概論	3.47	3.64	3.46	3.75
	看護実践における倫理	3.60	3.70	3.62	3.75
人材管理 I	労務管理の基礎知識	3.74	3.70	3.69	3.71
	看護チームのマネジメント	3.71	3.74	3.83	3.92
	人材育成の基礎知識	3.38	3.69	3.42	3.66
資源管理 I	経営資源と管理の基礎知識	3.45	3.57	3.44	3.54
	看護実践における情報管理	3.42	3.49	3.69	3.77
質管理 I	看護サービスの質管理	3.58	3.69	3.63	3.73
統合演習 I	演習	3.72	3.77	3.92	3.96

#### 8. まとめ

第1回は5月に53名、第2回は10月に52名で開講した。新型コロナウイルス感染症拡大状況に応じて授業形態は対面とオンラインで実施した。第1回は、13日をZoomによるオンライン授業、7日を集合による対面授業、第2回は、6日をZoomによるオンライン授業、14日を集合による対面授業で実施した。受講者の施設での感染拡大状況により、対面で出席できない場合は、オンラインで受講ができるように対応した。オンライン授業は感染リスクの軽減には繋がるが、対面で顔を合わせ、グループメンバーの意見を聞き検討を行うことは、交流の機会となり、対面授業の効果を実感できた。受講者からの意見では、オンライン授業は集合と同じように受講できたと満足していた。

統合演習 I は、看護管理実践計画書を立案し、発表した。第1回、第2回とも看護管理実践発表は、オンラインで実施した。第1回修了者看護管理実践報告会は、2月20日に計画していたが、感染症拡大のため中止し、看護管理実践報告を提出した45名に看護管理実践報告集を郵送した。第2回修了者は、6月に看護管理実践報告会を予定する。ファーストレベル修了者が学習したことを実践で活用し、セカンドレベルの受講につながることを期待したい。

## II. セカンドレベル

### 1. 教育目的

看護管理者として基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する。

### 2. 到達目標

- 1) 組織の理念と看護部門の理念の整合性を図りながら担当部署の目標を設定し、達成に向けた看護管理過程を展開できる。
- 2) 保健・医療・福祉サービスを提供するための質管理ができる。

### 3. カリキュラム

教科目	単 元	教 育 内 容	講 師	時間数
ヘルスケアシステム論Ⅱ	社会保障制度の現状と課題	・日本における社会保障 人口構造、疾病構造の変化 社会保障費の（財源）構造と推移	尾形 裕也	15
	保健医療福祉サービスの現状と課題	・保健医療福祉サービスの提供内容の実際 病院、看護小規模多機能型居宅介護、訪問看護ステーション等	佐竹 啓子	
	ヘルスケアサービスにおける多職種連携	・多職種によるチームケア提供の実際と課題	平山 香織	
組織管理論Ⅱ	組織マネジメントの実際	・組織分析 ・組織の変革 ・組織の意思決定	木下日出美 倉岡有美子 原田久美子	30
	看護管理における倫理	・看護管理における倫理的課題 ・看護管理における倫理的意思決定	倉岡有美子	
人材管理Ⅱ	人事・労務管理	・人員配置 ・勤務計画 ・ワークライフバランスの推進 ・ストレスマネジメント ・タイムマネジメント ・労働災害とその対策 ・労務管理に関する今日的課題 ・ハラスメント予防策と対応	楠本 美和 山本 美子 山内小百合	45
	多職種チームのマネジメント	・人的資源の活用 ・リーダーシップの実際 ・コンフリクトマネジメント ・看護補助者の育成	貞方三枝子 岐部 千鶴 坂井 和子	
	人材を育てるマネジメント	・キャリア開発支援 ・人材育成計画	貞方三枝子	
資源管理Ⅱ	経営資源と管理の実際	・医業収支 ・経営指標の活用 ・費用対効果 ・適切な療養環境の整備	岡田みずほ	15
	看護管理における情報管理	・看護の評価 ・改善のための情報活用	宇都由美子	
質管理Ⅱ	看護サービスの質保証	・クオリティマネジメント ・医療・看護におけるクオリティマネジメント	小渕美樹子 出口砂緒利	30
	安全管理	・安全管理の実際 ・安全管理教育 ・法令遵守 ・災害対策	幸 史子 西村佳奈美	
統合演習Ⅱ	演習	・自部署の組織分析に基づいた実践可能な改善計画を立案する。	演習支援者	45
	実習	・地域連携を理解するための他施設実習を行う。 (実習施設は、受講者自身の所属種別以外の施設とする)	山本リョエ 実習担当者 専任教員	
看護管理実践計画発表会 3時間			総時間数	183時間

#### 4. 受講要件

- 1) 日本国の看護師免許を有する者。
- 2) 看護師免許取得後、実務経験が通算5年以上ある者。
- 3) 認定看護管理者教育課程ファーストレベルを修了している者。または、看護部長相当の職位にある者、もしくは副看護部長相当の職位に1年以上就いている者。

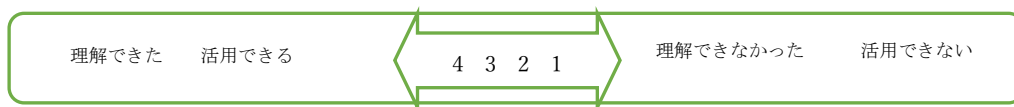
#### 5. 日程・応募状況・受講状況 (人)

実施期間	定員	応募者	決定施設	決定者	受講者	修了者
5月25日～12月12日のうち31日間	30	45	24	33	33	33

#### 6. 受講者職位 (人)

部長・総師長	副部長・次長	師長・課長・科長	主任・副師長・係長	計
2	5	21	5	33

#### 7. アンケート結果



教科目	単元	理解度	活用度
ヘルスケアシステム論Ⅱ	社会保障制度の現状と課題	3.61	3.67
	保健医療福祉サービスの現状と課題	3.76	3.73
	ヘルスケアサービスにおける多職種連携	3.91	3.91
組織管理論Ⅱ	組織マネジメントの実際	3.71	3.87
	看護管理における倫理	3.91	3.94
人事管理Ⅱ	人事・労務管理	3.89	3.88
	多職種チームのマネジメント	3.93	3.96
	人材を育てるマネジメント	3.85	3.85
資源管理Ⅱ	経営資源と管理の実際	3.79	3.79
	看護管理における情報管理	3.85	3.85
質管理Ⅱ	看護サービスの質保証	3.79	3.86
	安全管理	3.88	3.89
統合演習Ⅱ	演習	3.97	4.00
	実習	3.69	3.66

#### 8. まとめ

受講者33名で開講した。コロナウイルス感染症拡大に伴い、施設実習1日を除く開講30日のうち、16日をZoomによるオンライン授業、14日を集合による対面授業とした。実習は他施設実習から自施設実習に変更した。実習前に多職種連携や他施設との連携について学び、看護管理者の視点で実習計画書の作成、実習交渉、施設実習、実習振返りの時間を設けた。

オンライン授業は感染リスクの軽減に繋がり、特に離島からの受講者は時間を有効に使えると評価していた。また、集中力の維持が難しく、看護管理者としての情報の共有や意見交換がタイムリーにできないなどの意見もあった。全教科目の理解度・活用度は高く、特に「多職種チームのマネジメント」と「演習」は高く評価していた。「実習」は、自施設が地域でどのような役割を担っているのかを理解し、地域連携や他部門との連携について看護管理者の立場で考える良い機会となった。

今後は、セカンドレベル修了6か月後の看護管理実践報告会実施と併せて、セカンドレベル修了者フォローアップを企画し、認定看護管理者教育課程サードレベル受講へつなげたい。